

94
1
49

準貴

宗家記錄
諸方御内用往復書狀扣

明治九年

世八

宗家記錄

諸子河由南往後有狀如



第...
第...
第...

心法之自

清内用

后
清内用
世九册

清内用
世九册

心

心因

心因状念啓上

上之様法抄法書卷一

平山

書

友之

未九日

法對談

公使

相行方後
上之様法抄法書卷一
心因状念啓上

相行方義
 上之樣法抄法卷末
 抄法同書卷末
 以物由直一抄本如
 果中書卷末均如
 此分之法不徒云

以月狀念啓上亦如行方義

上之樣法抄法卷末一云成法卷末同

身之收中如又先書博法意重平山

為書以江根法以元法不向之儀次後也

大為友之元法同通之所法沙河法之故

朱九月十日比以不板此評為者王公使江

法對談之法用筋有之手中更更利加

公使口胡能也事伴出最板之次第當為

卷之四

書

今頃
多分
中絶
也

お成者し用海不反故法受能くは法定舟
十雲日此をとお達法上既くは定二二二二二二二二
史舟長流はしとる目不後し用向有くは既
然と現し渡海を不云云後とおる言式尤
胡能表時定は後しおる長流法用向は既
速し渡海は法向受を不後し用向有くは既
法向話意今故は使渡海方胡能向然各
之假好言を不云云後とおる元子行を既摸根後

二有之既今日を不云云後とおる元子行を既摸根後
筋合を不云云後とおる元子行を既摸根後
友之元より法言中を不云云後とおる元子行を既摸根後
頭を元より法言中を不云云後とおる元子行を既摸根後
お成者し用海不反故法受能くは法定舟
條理を不云云後とおる元子行を既摸根後
國柄字内之形勢を不云云後とおる元子行を既摸根後
果卵之危急を不云云後とおる元子行を既摸根後

海軍の白紙をとり眼若く昔の如く厭ひあり
事をとら右記公院の沙汰の中若く長喜く
願く對別之因旋若く使沙渡海方
此九止を以て松政度お謀居ゆ候に平書
乾守の現上沙渡海に此州宜く水と云ふ
表之有母くは進む中上段の愚考は
勿論有る也(舟と云ふ)治る事喜本殿次第
沙先報曰松海に注居事次第の事海先子速

胡能者に名渡しを少波に談判の儀志
平速長海表より河進中を松中談並に舟
目下沙也記を志多分沙報知中を松中
幸好ゆ候に言中を以て又も子若く海を大に
松中表に交れく有るに換松は少九に渡海
表成度も沙沙法を以て候法直接に沈舟
吾細友之元より申出候松中使沙渡海之
沙先有るに以て來候月を待胡能に談判

沙換換不知其意也其後少不語合之
次中忍入以微者入素の胡能王談判の
玉極六の交四八人合意進之波地設くよりも
中朱居の次中忍名は止波者之已去平山根
既法下向之波源の當志波地之轉語談判
向之玉の國之元不語上の當之元其波次中
多能之長之入右之邊之法の意の及言難知
此事之長有之行率最波の波波境今之

都谷急元志長波の市中城の表平山根
法淨法中法少及之玉の根迅速之度法
及計有之度法之希好の世辰為一中述
如新の産の正怪龍之

十二月七日

吉川 宣針



島惟直城及
吉川治右衛門及

村 邑 近 江 皮
村 岡 相 換 皮
小 門 丹 十 皮
仁 江 孫 一 柳 皮
古 門 蓋 浦 高 皮
榎 口 淡 田 所 皮
古 門 宋 女 皮

古本よりあつたものなり

二一七

此の
書は
丹下
氏の
筆



一七

古本

丹下氏の筆



小田原

天朝

天朝

天朝

天朝

天朝

天朝

天朝

天朝

天朝



曰と云ふるは其の如く見ゆらるる下し
治礼を其の如く其の如く毎之に復復
之如く其の如く其の如く其の如く
探索其の如く其の如く其の如く其の如く
物之其の如く其の如く其の如く其の如く
所奉

曰おの如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く

三層へ入敷多し其の如く其の如く
おの如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く

將軍家所奉
曰其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く

張提收梅以下口呈奉法斷袖本
向在(奉)法(奉)向(奉)向(奉)向(奉)向(奉)
狀未(字)字(狀)且又(愛)部(心)心(心)心(心)
板(金)字(元)字(奉)
日(乃)乃(乃)乃(乃)乃(乃)乃(乃)
將軍家且(今)奉(奉)侯(侯)侯(侯)侯(侯)侯(侯)
少(少)少(少)少(少)少(少)少(少)少(少)少(少)
得(子)子(子)子(子)子(子)子(子)子(子)子(子)
也(心)心(心)心(心)心(心)心(心)心(心)心(心)

一
知(延)延(列)列(列)列(列)列(列)列(列)
知(亦)亦(亦)亦(亦)亦(亦)亦(亦)亦(亦)亦(亦)
知(角)角(角)角(角)角(角)角(角)角(角)角(角)
知(正)正(正)正(正)正(正)正(正)正(正)正(正)
知(及)及(及)及(及)及(及)及(及)及(及)及(及)
知(且)且(且)且(且)且(且)且(且)且(且)且(且)
知(以)以(以)以(以)以(以)以(以)以(以)以(以)
知(心)心(心)心(心)心(心)心(心)心(心)心(心)

天(幕)幕(幕)幕(幕)幕(幕)幕(幕)幕(幕)幕(幕)
右(通)通(通)通(通)通(通)通(通)通(通)通(通)

梅在後... 法念... 亦... 有... 出... 收... 場... 不... 美... 屬...

善念... 亦... 不... 今... 良... 立... 亦... 亦... 亦...

古月寺

平田為三



修雅堂藏版

古川信安藏版

村屋道白藏版

村屋相持藏版

小川丹下藏版

古川道浦藏版

梅白溪堂藏版

古川余女藏版

刻
古川余女藏版

少園半相

日

日

日

日

修史文

二條抄改採
 九條丸大採
 大炊部右採
 廣幡右採
 近衛前白採
 日 前右採
 一條前右採
 日 前右採
 飛鳥井右採

Faint vertical text, possibly bleed-through from the reverse side.

中
之
國

溪
美

美
空
大
網
之
標

溪
美

久世宰相中將標
袁松中將標
豐園大落標
伏系二居標
唐橋標
小科標
柳系大網之標
六系標
行空標

正徳二年三月

大田河左衛門守長

子

乃

正徳三年外

正徳

伏見 山科 柳屋 六条 東山 京

写紙

正徳三年

内用

正徳三年三月十日

七

中

三

三

三
三
三
三

以肉状之... 龍田又...
三人... 龍田又...
先... 龍田又...
内... 龍田又...
上... 龍田又...
今... 龍田又...
天... 龍田又...

系接之時直而因許の要汲不費
通いふも市邦内之方句疑お之人心
自沸乳之機含ふ必以不安治中
多之依あり之人親愛身少探索
い等し古因許は取望之内一助去
結及夏愛困之或情疑然止あり
不顧前後思あり之堂坂候候とある
勿論

天下之形勢系接之事情を列へ

探索を不待と為るは此の方は仕業の
ほくそ抜因疑は在る助と云ふは疑
云く動く分を起法を犯はせも以後
不致不避之治中も如大滞南中一深
身をとお情身込へ探索を心せざる
朽物即今不慮之憂動若るは現
非親愛入人の中お申はる尚ほ以て致
帰因は存する物及なき事候
天下之形勢之候と表之中誠は

山海經云人列後之影使建是也
今案其書之方委以如先法向向後
是也亦謂國許亦亦故多之與事情
致貴每海無免角法國備於合兼
其書之委又於法之人之動之老故也
亦故之於法之於無以亦理之治也
一之致貴明也亦亦於法之於無以亦
亦補首之法一始大於於於於於
歸國之之法亦亦法典之亦亦編

存心之河分一人之士也後法信之也
今日之狎勢非亦格亦之法附亦格
一息亦之動之人事為之亦亦於法
行也其

亦仁明

亦英新之亦亦亦免角為時之

亦附之亦亦

亦恩威並立之法亦亦亦亦亦
亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦

名理禮之

正月六日

右門主計



馮維首城後

右門治軍後

村園進口後

小門丹下後

右門漢浦高後

榭口張四郎後
右門宋女後

右門狀去... 及... 也...
望

二月

右門宋女
榭口張四郎

小門丹下
村園迎口
島椎堂城

寺門

寺門

多周

法田用

Faint vertical text in the left column, likely bleed-through from the reverse side of the page.

尾子下子

Faint vertical text in the middle of the right page, possibly bleed-through.

馬
小門丹下
村園進口
島推重坂

心口果

四七

心口果之誓之故行方家

上之様は採り名森は法信所國三多志
又今度就田又法師山門永就友元
大信珠之即依收中飯斗以分合所兼以
相傳出所也對同相立以分長卷以法相
お事下任るそ之新そ之無念も之そ之
おん此そ又之そ福頂之相合之そ神
節お備以之將之そ事以之進之そ百
歸國以之計之そ言之そ事以之進之そ百

再考
徳也三人
お事下任るそ之新そ之無念も之そ之

五原辰場の意

一 然否を大友に九日申す。物迄念和
河土の増え南河田の法用中。手
可及に候辰お逢河書名迄。去る月
乃程下上。以り或之。印合。之。何進
之。之。意。お。候。以。り。或。之。何。進。之。

去月十日
吉川 三行



の雅 首級皮
古川 治久皮
村屋 迫口皮
村屋 お換皮
小川 丹下皮
古川 蓋浦古皮
植口 鉄四所皮
古川 糸女皮

古川 治久皮
村屋 迫口皮
村屋 お換皮
小川 丹下皮
古川 蓋浦古皮
植口 鉄四所皮
古川 糸女皮

右内状云云方草草以改書及今内也云云云

二月五日

右内状云云方草草以改書及今内也云云云
右内状云云方草草以改書及今内也云云云
右内状云云方草草以改書及今内也云云云
右内状云云方草草以改書及今内也云云云
右内状云云方草草以改書及今内也云云云
右内状云云方草草以改書及今内也云云云
右内状云云方草草以改書及今内也云云云
右内状云云方草草以改書及今内也云云云
右内状云云方草草以改書及今内也云云云
右内状云云方草草以改書及今内也云云云

右内状云云方草草以改書及今内也云云云

右の状を...

有...

見...

右村小... 右植... 右作...

右...

市内用

Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.

中白田

以白状破之法物を身志月年

沖像女採法自新紙と音沙法定之なる居候
此今之沙傍白田澤合山切通し中

沖入奥之早

沖形白田山形来り長方より其行先く

沖振と通し山形合之限は其の古物御申す

沖里候より通し合ふる人分沙田法は其及

曲人人合山形山形押法沖形御申す七百山形

之可及より山形山形法は其御申す七百山形

中白田
此今之沙傍白田澤合山切通し中
沖入奥之早
沖形白田山形来り長方より其行先く
沖振と通し山形合之限は其の古物御申す
沖里候より通し合ふる人分沙田法は其及
曲人人合山形山形押法沖形御申す七百山形
之可及より山形山形法は其御申す七百山形

少少きし得る方は不及なり山生我し蘇白
多くと云く思ふ遊世付の田代は流俗古田原五年
不化亦後未少く一故令上四半一者ありと云く
少許人をもあつて居る何れもわが法門生れたる
之を許り得るは以ては、彼を格別しく許度事一少く
有るは流俗は是れ家々、流俗は和山原一少く
人丈敬和の法門に居る流俗は有るは有るは
此は山生用を少許教人少くして之を成りし能く
上令ふ能く思ふもあつて流俗は、思ふは向く
お孫り上平田なり九版の法門一有るは上
許すは届くあつてあつて及打合の法門に客く
法門は不化之なり有るは有るは外連にお遊るは
令ふ子も余敬和の法門に居る、此は流俗は思ふは
あつて許すは流俗は、此は上と云く、此は上と云く
此は上と云く、此は上と云く、此は上と云く、
有るは上と云く、有るは上と云く、有るは上と云く、
此は上と云く、此は上と云く、此は上と云く、
此は上と云く、此は上と云く、此は上と云く、

此物之法原中一而大也之成之也
或學中身物不少厥有方及下法也
此等心之方之也之亦定而少石可
為之上也之也之也之也之也

十二月十五日

由子甫

漢道孫志



鳴雄益城
村園相換

古中然心以去及區之也

丁一

義

海石

ちまかッひまろまろし
二日平 山崎
後まゆり

徳久

十一日 山崎

辰子

御用

六世

Handwritten notes in the right margin, including the characters '日' and '月'.

Handwritten vertical text in the right margin.

Handwritten text in the upper section of the left page, starting with '取日状'.

Main body of handwritten text on the left page, continuing the narrative or record.

新法世世傳心世法云

三春
正月十日

鳴雄八節

吉日年是



鳴雄卷據候

村園近江候

村園相換候

樋口河原候

正月十日又吉筑後松橋坊在松橋

一、中合部筆書中初下席大之通

一、渡別坊高月十日初之三九千人半一取渡地三

此通之由

一、防取候上系之渡法福守之日人合之由也

一、市先勢之廣大之渡言田上之市勢之渡法福守

一、連通之令、門於市成南不通沙市市回勢

一、百五六十人半之由

一、又、防取候上預本之渡法十日市上高月十日高慶長

之九言人中祀祭尤久每本方教人惟我人
者しは津百精夫士徳産長去と行休之音
川夏也

一 右子ノ道来下と女子人中一日市上は深也
一 海子九千人中一日田境上は深也

一 此上
一 此上
一 此上

日代津間左凡少所収書者十興唐た道

一 此亦板中上事は南月古は順日伊万里
此亦書く事今以回本上は滞取事

一 又亦板中上事は南月古は順日伊万里
此亦書く事今以回本上は滞取事

一 又亦板中上事は南月古は順日伊万里
此亦書く事今以回本上は滞取事

一 又亦板中上事は南月古は順日伊万里
此亦書く事今以回本上は滞取事

能事候並其江大坂ノ宮ノ夜目取付共上

大坂ノ宮ノ夜目取付共上

一 伏見ノ宮ノ夜目取付共上

一 橋本ノ宮ノ夜目取付共上

一 南ノ宮ノ夜目取付共上

一 寺田ノ宮ノ夜目取付共上

一 因白殿ノ夜目取付共上

一 大坂ノ宮ノ夜目取付共上

正月ノ夜目取付共上

仁和寺ノ夜目取付共上

ナリ一橋ノ夜目取付共上

尾張ノ夜目取付共上

桑名ノ夜目取付共上

大津ノ夜目取付共上

正月ノ夜目取付共上

正月ノ夜目取付共上

正月ノ夜目取付共上

五人と存銭の事とある入牢にお定
申し然るも大存銭の向ふ
中川宮極一極極令津かしく雲海
有し高丈の舟京都かよふかよ下坂
におか乗冬之久し下坂け念河大坂持
田まひいしと園におか申し
中川宮極も大坂城の出入り候る所誠
こゝより道中におかしく荒河のまの住業
と母不知の首をとりて物言ひたり有し

壬午御決し申候事におか申し
諸大名極南九日人河登之系におか
し通におか申し
近傍九條御目二條一條廣懐
大徳門徳大寺花鳥井六條形之宮
日影堀川加陽家跡儀柳系系室
伏系山科廣橋池尻片形寺是
書過
六二十四人
内門及におか

之介令津素名友位水及揚之平
子帰回下波名法地公

中国杯 廣海杯 薩列杯 加賀杯
土佐杯 尾海杯

河新六少の西園之お水尾海杯
水之家之ちる玉之の中水入お水
一橋杯 素名杯 西儀之杯 大坂
之味水入お水

紀別杯 大坂八軒 倉屋表之清か
お水之場 玉之西引 水お水
清海

望

Handwritten text at the top of the left page, possibly a title or header.

Handwritten characters, possibly '日' (day).

Handwritten characters, possibly '子' (child) and '三' (three).

Handwritten characters, possibly '子' (child) and '三' (three).

Large handwritten characters, possibly '子三' (Child Three).

Main body of handwritten text on the right page, written in vertical columns from right to left.

Handwritten characters, possibly '子三' (Child Three).

五平山の山と云ふは山脈なりと云

首七〇

改申
由
美

年
反

山字の中

御内用

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

承中

以因狀皆在舊日既十者謝志以子爾
一上無官亦慶事 秋令感息一上無官
 遂下秋一上無官 今以何未一上無官
 不一上無官 中一上無官 今一上無官 形勢一上無官
 以許而都者一上無官 概令一上無官 忠若一上無官 任仍一上無官
 而後而後之一上無官 法一上無官 若一上無官 待一上無官 一一上無官 秋令一上無官 是南
 身為立一上無官 積去一上無官 志而方一上無官 而後一上無官 而約一上無官 之一上無官 候去
 秋候去月十者一上無官 以許而都者一上無官 忠若一上無官 任仍一上無官
 此後任一上無官 忠若一上無官 任仍一上無官 一一上無官 同伴一上無官 而大小

承中

承中

在學一上六十八拾一兩一差矣法宜能
流運及一屬公中坊坊也亦能亦以
法願成之夫亦少海無以公之飲之拾則
中慶事一有任同之語一動能能之
移化亦百為之南月中二月中有月
到合一上現合款用新公運之。依
尚和公亦款之。物合亦或亦或亦亦亦亦
方預全中後石。亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦
切也。亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦

皆納之移又毒酒上上秋下信信以信為
申上薪沙沙沙沙沙沙沙沙沙沙沙

二月廿日

馮雄道法在學

馮雄道城極
村園相換極

右支如... 之... 已... 已

之日... 以... 之...

後... 之...

... 之... 之... 之... 之... 之...

後... 之...

御内用

... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...

而也

備州收管在分收冲慶事缺卷
廣源之通其乃今上重通法卷
今行事之法卷其乃今上重通法卷
天下之形勢任心新市部志不備也
概令之意考法仍之法卷其乃今上重通法卷
新令之法其用之為其新市部志不備也
古法市部之法其通其乃今上重通法卷
以新出之法其部志不備也
法方一節也其通其乃今上重通法卷

卷之四

六丈人檢之西... 法... 意... 殊... 殊... 殊... 殊...
 以... 相... 捕... 也... 夫... 難... 在... 法... 所... 所... 所...
 此... 後... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...
 之... 物... 所... 之... 到... 值... 正... 後... 先... 任... 有... 初... 有... 者... 為...
 三... 年... 月... 中... 一... 月... 中... 一... 月... 中... 一... 月... 中... 一... 月... 中...
 故... 酒... 形... 色... 也... 是... 也... 故... 物... 與... 人... 之... 辨... 識... 也...
 而... 於... 此... 時... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...
 一... 月... 中... 一... 月... 中... 一... 月... 中... 一... 月... 中... 一... 月... 中...
 申... 上... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...

拾番
二月六日

法雄八郎

吉田年見



嶋雄益城柳
 村園相換柳

右集抄以迄及及通卷之上下

二月十日

活雅堂藏

吉田氏藏

活雅堂藏

活雅堂藏

活雅堂藏

活雅堂藏

存于子字号也

御因用

十四日

少如舟也
如之移也
如之也

以內狀較諸上條今般列條在次
上以通之并比沒青木小為大方今
天下之形勢不依竹事為探康馬園進
去正仕以交於彼方知者之人者取合
列冊之書類寫取者我上以并寫在入
所投見之亦在於彼方款中者急
寫取落字書換者力之不介之廉之度
所推流下以并傳系之事件以進之

可存源中融光代辰為可十上中是
伊丹屋次忍恒禮云

二月六日

鳩雄八郎



吉田集見



鳩雄益博棟
古川治春門棟
村岡近江棟

村岡相摸棟
樋口鉄齋棟

卷之五
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十

御用

長子

古之成心

二日

云々

村中
下
馬

亦印也

以內狀被錄上惟今度此役青本
小及大能致初到以人存為今天下
形勢內容為探察列候在以下上通
馬關述下仕此等向之取此書類考
寫取五五紙十以月今方集之在入所
披身之在同人書狀之內狀是事件
內分中紙以所通引之一端在可表成
在存以另書被在入所後在以此
為下上中色所在此君慎謹之

二番
二月六日

嶋雄八郎



吉田隼貞



嶋雄益城棟

古川治彦の棟

村国近江棟

村国相換棟

池口鉄郎棟

一 長川女將梅之丞及子人教法は是迄去月廿二日

沙由之由成居の如 宰相梅思下と云は沙由近江

又村集を多し人沙由元と云ふは是迄の如く

形勢沙由知ヤル成りの沙由一由

一 沙由殿梅は度本を中へは親許清く事あり

後方より沙由使者より得共は沙由元と云ふは

何し沙由梅より云ふは事は沙由使者より

と云ふは内事一は沙由元と云ふは是迄の如く

は大切なりと換合と事存候

一 服迄之白小田久年舟小官位在部并古云
 豊大外右之船より便之は市川玉元より高河
 舟勢多事細よりさるる市川國典亦有記之
 少河橋市川下屋々 舟舟少共下若平下三世
 田幸下舟代にお成舟日之舟勢多るる四自三
 市川元右名船よりお成橋子の市川在儀
 一 唯今市川玉元古谷船大坂より馬國掛馬寄
 繁船其頭由之々

市川船より東下乗より上之其頭由之々
 石上雅申上幸存は海共乗より上之其頭
 為若東助と神有人乗也なり石上は其妻對也
 市川

江上

Handwritten text in a cursive script, likely a list or account, spanning the top half of the page.

Handwritten text in a cursive script, including the words "1 - 100", "1000", and "10000", located in the lower half of the page.

仲素回書

右手物送致虫乃通

二月廿

海軍

海軍

海軍

集りて
少部反

海軍

御月用

素行と云及
フクニ云

以月状破在在者十宿意り列比西の事は所不
但月念一人兼く清如安清門と感るる感るは
清和向い候に清少少及清和同に感る及候
清のよき感中入り分事と居候に候に候に
波射向り候に同公中出り候に候に候に候に
亦此等候に候に候に候に候に候に候に候に
方と云ふ事候に候に候に候に候に候に候に
清和と云ふ事候に候に候に候に候に候に候に
清和と云ふ事候に候に候に候に候に候に候に

清和同

度彼のいふ事お仕也卯上列此也度西度而
市川前にお掛の事市川の方へ去り換の度
爲佳好ニ夕後焼しとくし女三人の所
外に之店れ毎く掛り事な名前お守い
市川内名後浪浪お春り事ゆい事この海
らぬらゆきし候中ゆいり市川と入りの事
掛り見の事し事履り故救多脱救しり度
あきし市式を土是る端とくは是迄杯
此河も孔難た形勢常この方次人お掛

店の人を人し店合きし事い不事候候
疑者仕ゆ私り恙意にらお故自身持上り
定例出勤し新お掛いるとお親見の事
筒袖美人ハツ子等云い人拾人汁し事
他子持るお後店いり具内端店し人向い
私多礼を玉掛品少及く者り事し事今女
の度事い事ゆい候中ゆいり事い候
市川内下是也事お掛り事し事
候中入の事物事い候中ゆいり事

私に在りて人其に拘入りし事お推察
の事無征新改し人又、法出らむ事
うらみなく事と別りしとくしり、漢門
より私に在りて一編、一と私にお推察
海とと流肥の妻家と少及、其外、唐品
産品、古刑、多し、後士、彼を拾人、計し
同、法、合、一、編、向、こ、中、出、り、る、私、後、只、今、以、及、所
附、但、同、心、系、列、而、方、感、ん、事、利、し、候、多、し、若
法、出、り、す、事、と、分、け、出、り、し、河、角、法、是

如、し、候、も、一、所、法、探、し、と、く、候、も、又、と
一、所、感、ん、候、も、お、推、察、し、い、り、遠、く、法、出、り、し、事、と、
事、と、分、け、し、事、と、分、け、し、事、と、分、け、し、事、と、分、け、し、事、と、
中、之、元、辰、中、亦、述、り、る、事、共、内、古、卯、し、後、士、仍、来
之、事、お、推、察、し、し、事、共、内、古、卯、し、後、士、仍、来
只、今、同、心、系、列、而、方、感、ん、事、利、し、候、多、し、若
我、も、お、推、察、し、し、事、共、内、古、卯、し、後、士、仍、来
事、件、お、生、其、候、も、亦、夜、お、推、察、し、し、事、共、内、古、卯、し、
河、角、法、是、と、及、候、事、お、推、察、し、し、事、共、内、古、卯、し、

又者、おりのとまき人、或は度い洋金車門拂、
お成り若くは意、波傳兼い、自甲速、染せん
のま、うぶ果、あ及、而、立、延、後、其、法、お、固、ノ、度、り、を
ま、人、お、お、く、悔、之、兼、後、が、先、の、あ、り、お、固、ノ、い
心、情、の、お、込、込、り、ま、ら、門、後、の、薩、後、の、も、の、お、込、込、
お、成、り、の、支、拂、の、後、合、中、支、下、各、夜、の、急、く
の、お、成、り、の、お、込、込、中、の、お、成、り、の、法、を、お、成、り、
ま、お、成、り、後、支、拂、の、い、地、門、拂、の、お、成、り、の、お、成、り、
お、成、り、の、お、成、り、の、お、成、り、の、お、成、り、の、お、成、り、
お、成、り、の、お、成、り、の、お、成、り、の、お、成、り、の、お、成、り、

此方、遠、南、西、の、度、も、各、國、の、外、夷、交、渉、の、地
の、り、と、傳、向、肝、要、の、お、成、り、の、お、成、り、の、お、成、り、
任、の、お、成、り、の、お、成、り、の、お、成、り、の、お、成、り、
奉、勅、減、の、各、各、の、お、成、り、
皇、國、の、お、成、り、の、お、成、り、の、お、成、り、
物、更、い、お、成、り、の、お、成、り、の、お、成、り、
御、衣、疑、惑、の、お、成、り、の、お、成、り、
各、度、お、成、り、の、お、成、り、の、お、成、り、
一、波、の、お、成、り、

遠く出候。お成大他。在候。法。度。士。お。振
り。と。存。之。事。件。一。宗。係。自。中。と。致。候。法。度
惣。代。使。之。事。一。法。令。採。換。上。去。所。後。士
便。田。受。替。情。交。渡。の。因。由。等。は。候。意。氣。候。
急。上。京。申。候。今日。南。港。出。帆。之。事。一
。私。一。派。に。中。主。令。意。酌。分。給。所。法。度。使。に
中。渡。中。お。号。換。少。及。索。留。帶。力。入。来。渡
對。面。知。帶。力。中。出。候。内。に。漂。着。之。朝
鮮。人。一。所。り。以。洋。に。送。意。に。お。成。之。候。事。候。也。

事。由。上。之。候。所。り。若。法。令。中。主。令。意。酌。分。給。所。
物。之。名。共。申。候。極。子。の。速。進。事。候。事。候。也。
明。十。宿。の。更。五。二。方。候。事。候。極。子
今日。主。令。更。五。二。方。候。事。候。極。子
何。り。委。令。輕。水。の。所。候。事。候。極。子
江戸。の。及。人。元。之。所。候。事。候。極。子
の。使。令。者。朝。鮮。人。の。渡。方。候。事。候。極。子
之。事。候。極。子。何。年。申。候。事。候。極。子
り。如。小。の。候。事。候。極。子。候。事。候。極。子

市上候お参り受用は、互の儀を以て下
りし事一申す所、少及、度彼より相違、又
西及、暫出候一派、朝鮮人お交れ方、候
申出候者、為り受用、候、以て、市中
初、搦、り、杉、柄、朝鮮人、候、を、控、又、甲、々
申出候旨、の、交、れ、方、可、念、の、候、一、派、
申出候、旨、の、交、れ、方、可、念、の、候、一、派、
申出候、旨、の、交、れ、方、可、念、の、候、一、派、
申出候、旨、の、交、れ、方、可、念、の、候、一、派、

是又申す事一

一、所候、之、の、明日、者、備、し、士、運、上、不、
成、而、今、度、候、廣、通、河、密、治、通、糸、兼、堀、
傳、之、所、及、各、回、之、コ、シ、ユ、ル、中、是、品、コ、シ、ユ、
ル、不、成、候、候、候、候、候、候、候、候、候、候、候、

長崎、書、之、不、可、長

一、明日、書、之、不、可、者、回、品、士、集、會、之、後、候、
書、之、事、一、申、す、所、在、事、卷、中、の、事、物、之、書、
之、事、一、申、す、所、在、事、卷、中、の、事、物、之、書、

家系を知るに及ん

千八百八年二月八日

葡萄 セーロウレイロ

及同 こんキユスフロウ

及同 リキヤルトリント

白同 セアテリヤン

和葉同 エフペーニブリン

佛同 リキ

丁味同 ハシキフ

二月十日

堀傳之介譯

右に述ぶるものいふ多しと雖も 明日星

一平後一統海邊より別此一國西及南門九

流き地及人及社等流出流流し内にお國

の事

明日星と別々西及南門の邊り流き地中合

の事

十日

右に別西及南門一國の邊り流き地中合し述

各藩之形... 各回... 延... 書...
た... 延... 延... 延...

子八百... 年... 二月八日... 書...
朝廷... 其任... 者... 延...
在... 延... 延... 延...
及... 延... 延... 延...

萬應四年

正月

長崎運上所

各回

コトコト

産品	延	沖	延	延
肥後	延	宮	村	延
熊本	延	栗	田	延
鹿	延	石	津	延
肥前	延	宮	延	延
大	延	延	延	延

對面度

岩崎江

宇相店

升実亦左衛

宇奈店

石川治郎兵衛

平戸店

崎野地重吉

廣津店

杉江金輔

大村店

端垣法親王

小島店

宗留重力

〇 元後と市中と編

尚他家乃門拂りなりと地一併に

之と
障

事件違而法少知ありと云法事一
各之請兼地と及人元後とと美事
西及而ちわと書及号浮沈未中編
安ん一商業お美中事

星、日

辰正月十日

〇 今日、致和後本内是書情西及而地及
〇 今日、元後とと事那の云書致ありとと
西及而日と朝書内所が夕刻大他其日と
〇 河相棟と一渡が喜人々各後一同お儀

市々し事法食はあかき家々々々々々西及不と
倉蔵所はあかき根又法食はあかき事

北極の大事に

政府は命令依り白長崎はあかき延帆
後市中は警備の支那はあかき長崎
在はあかき保局はあかき各回コニユル正月
上中長崎はあかき書物はあかき
在はあかき河方はあかき事務はあかき

我亦告知しん事と云ふ

経長崎はあかき辛、年辛二月十日

葡国

セーロコイロ

英回同

てんキスフロウん

字回同

リチャルトリコドウ

亞回同

テール元モール

佛回同

エルレーキ

白回同

ゼーマナリヤン

業回同西回業同 エフペートニフリング

于其九月四日

ハ一ニキフ

右之通稱に之通

子八百字八年第二回八日附之書物
七之長法事の通帆後之事務何方
高の扱之告知一之及之申紙り後
由之知之有之長

朝廷其任職之志り方紙り之西及所
おろ之長法事之各後其世之及之申
法事是之通帆後之及之申

及之通

長法事

北前藩

長法事

北前藩

申之少別之西及之通帆後之及之申

同十七日

大村藩市中法事之及之通帆後之及之申
因之及之通帆後之及之申

市中法事之及之通帆後之及之申

及下旨お儀の分處心持お進の事

去上夜九下四におひて乱果の法座を云

百柳よりして世轉流多尔此後遊之云

日おぬの事

天白辛酉年二月十日 增廻、正月

英回王よりこころ元今日第二字味、利星と云

かろて此紙支多し士官又云い人として

事と交活スル士官元と西宮波夜公

所と世中來り分置上おぬ如儀英、星

對向し士に通

紙前 少次 栗田 貞

紙前 副島 次郎

海島 松方 忠実

土品 仍 友之助

金七百七拾支系 以後全

同之旨辛酉年 二番元重

同旨之儀 安系 法向部

同之八百支系 四年代門分

同式女子百五糸

法衣之

ノ女子百七拾六女

外

女子百六女

後令内西及...

有之重言の重言も有之及部之及元ノ

のありたる所の森多くと申す事一

二月七日

定及

市月休後次

吉村後次

西村次郎

今般長法其の通帆後公之事務後

朝廷其任歳々者之云越りて之く候事在後之

法衣兼去也之及之申合我國民才去公人民

科之暴和の事勿論法事一石取律之候

事之板之取波一主号御無懸念交易而

事是之之通和の板之國人氏との取福

の取之一後事之人之候も程又暴和の

勿論之取律之候事之板之及之候

中々候事

美意四年辰二月

各藩

各回呈上宛

各通

格三人 花押

御成道中奉旨方早中只等々方無下成
其心相違終方 是上相成方成之方
以

守日寺

依成之寺

廣品沖

化後之村

無不案田

廣品石津

化不主松

對品石津

定和清丹実

清原石川

平戸後了

廣博松江

大村松垣

大寺上宗而

別紙書翰中案也奉旨今日 是上相成
出後之法度上の方出下の方文之書人
敷成之候之方是也 申紙の格の書
之方は横文之方は爪号の格之方は
之方

守日寺

是上相成

御用

御用書

火急

有之別也也曰快之書條十八日意中別比
心也安日波日運也之條波下之方也事

同十八日

去十六日者藩之御上とい行も成事條
心之書致在之と之波後之是收事人之
西波而波方之候中合事成其後修又
終後之振事考之候初及之由候之人
日之注出之候自候之由及事向事之書人
門之書事之新之同波之代人代之注出之

中一各波之入之知事之書之候之
之候之書事之事也之考之候之初及之
事候之注少及或之波上之介之書人
唐之書事之候之入之門之書事之波之入
波之書事之入之注法合之波合之書之書候之
為之書事之書事之入之注法方之書事之
念之入之注之書事之入之注評信也之候
事之書事之書事之書事之書事之書事之
浪江信也之書事之書事之書事之書事之

後主又者後月相西及不後方後主
年三引トシ道々々々事

今居別一月西及不出揃之上今引上後
仍主之字引トシ後主各公コトコト
中引上後法今トシトシ人トシ道々々々事
おぬり事

無不少及粟田貞
北若後主 副号次引
藤原門 松方山公
七加門 仍主之字引

有く人トシ道々々々事
引トシ及後衣リ事 何事トシ中引上後主
仍主之字引トシ共内佛回トシコト元何角
其親トシ引上後主對長門而應對
トシ後引上事

一佛云法界法云肥親女家トシ引上事
其酒トシ引上事 副号次引トシ法界
云持トシ後主之字引トシ後主之字引トシ
仍後トシ道々々々事 仍後トシ道々々々事

市中 毎夜多きこと 世に於て主と遊る

朝廷に 命を授け侍るは 佛云 法華は 何を

副答 而及不 佛云 其乃 何人 ンヤ

副答 其乃 法華 一佛に 授け侍る 集後 授け

侍る 是れ 其乃 十リ 佛云 其事 八元 其

大君 命を 授け侍る 大君 ありと 知る 其乃

帝 ありと 知る 大君 命を 授け侍る 大君

命を 授け侍る 大君 命を 授け侍る 大君

副答 其乃 命を 授け侍る 大君 命を 授け侍る

後 命を 授け侍る 大君 命を 授け侍る 大君

計 一 命を 授け侍る 大君 命を 授け侍る 大君

朝廷 命を 授け侍る 大君 命を 授け侍る 大君

命を 授け侍る 大君 命を 授け侍る 大君

帝 ありと 知る 心 侍る 大君 命を 授け侍る

佛云 命を 授け侍る 大君 命を 授け侍る 大君

命を 授け侍る 大君 命を 授け侍る 大君

命を 授け侍る 大君 命を 授け侍る 大君

命を 授け侍る 大君 命を 授け侍る 大君

命を 授け侍る 大君 命を 授け侍る 大君

命を 授け侍る 大君 命を 授け侍る 大君

命を 授け侍る 大君 命を 授け侍る 大君

高麗之三不トレノ者此去後浪右側ナリ
副卷云ナリ

「薩加分此夜以洋及歸方ニ岩岩士或者
辛人ナリ此云ノ後一浪ノ後夜沖津津
中出ノ者ナリ」

「去十甲夜在山河ノ下ノ宅難知カチノ押入
及乱暴海盜ノ者人爲本ニカカケ
石捕来ニ海盜ノ者名不トレト也

之京ニ市

山中云々

字体但已

井ノ下次所

右ノ者左何事モ在野塚ノ中ニ者ナリ
昨日西及南ノ白洲ノ海出口間ノ上ニ
在野塚中ノ門渡所候節番不カカケ
前後ノ斬罪ノ事
「此去十甲ノ以来市中ノ初擡ノ事
法按方ノ各圖ニ三三ニカク意討ク次第

其外法儀之形儀位又甚之及之徒
進之方儀候而進之教又之宗師也
及法儀法令とたて人々一地方内
以律及違上之方律儀、其儀事一

薩後分 沖直次郎

薩後分 石津彦六

肥前分 副守次郎

大村分 常井邦清

右十守、夜法卷門拂之新西及下之儀

重々分、夜法卷之宗師、持去、其儀事
地及人之内、法之儀卷、宗師、其儀事
外、國師、進儀、其儀事、長法、及不
以儀、重々、市中、の梅育、其儀事
儀及、儀事、市中、の梅育、其儀事
人、其儀事、依、其儀事、在、其儀事
其儀事、其儀事、其儀事、其儀事
其儀事、其儀事、其儀事、其儀事
其儀事、其儀事、其儀事、其儀事

用心重乎一之持油波去解之勿不亦涉
於此之下亦必進付未及夜中進交其意
主市之之事之信實物之於後又若出
下市法之於夜中亦於於之重子之進
字亦重交之亦商來西及而亦出亦重亦
在之於之於之重矣之之亦在之進

白水保之

市內亦之進

勝村今之

金五百貫

牛馬之馬之馬

市內之馬

有金由月十貫夜及之亦他外亦
其鐵重子亦重之亦分格則皆於
以分亦重矣亦亦之

辰月

同十九日

今日亦加例之藩士之橋亦重亦西及亦
出帳之亦亦

〃 洋書生不江戸分業の出及、本成居の事
醫師

市内之去后

比田謙高

公生 五世

有之始といふ所内業、事一取出の介但取
内業の方中甚におかぬ事一

〃 唐情換少及於江金浦名を後田根是是
日と西及示出浪におかぬ事一

及内源の事、唐情換とも元來の備代ら中
結文、尚存き及古換の在藏く、内源の
いふ所、大板伏ん、後書、の官軍板兵我事、
依り同念、種情取く、次書、比洋法巻及
幕府、及く、俄、尚示、門拂く、形、平
竟、是、おと、事、件、一、日、く、者、後、四、同、席、高
其、満、言、及、二、所、後、居、の、中、唐、情、少、及、
因、換、出、浪、お、成、素、了、勤、五、家、く、唐、士、の、
法、源、及、取、情、種、の、後、と、主、波、逆、志、は、介

予も名属の同根何而も可部多し而後
去りて候今度終く波出候間及て老
中少政とい所之殿次之義上系在而進く
上候に候所の事なきに未だ及候に
所中いり候又急く私立不意に所
之殿次及家中一流派心變り多無
しといふ凡そ終り進出候と上及の
中々し事と今日西及所門に
之夕迄候心在而志不違ふ所
以候也之と成是

此夜薩島候少及法湯治の志
成進之と方西及所出候所
成進の由と持来方也と成

尾張大納言

越前大藏大輔

曾分今候に候兵戎岐大砲
携進く伏見表出候之度如何
之と不審易進進其候親

勿論の所は当所にて因縁に能く
寺在人救甲にて門拂板の汁にて
若ふ奉命にて候とてふは侍止
出
朝款にて侍止候事

藩別

仁和寺宮為仁東將軍侍出陣
人救一小隊急に召出候事

藩別

坂出候より容易致進之言より
伏水表汚濁の御務に力を入
りて人救にお加度重登使
候事

正月

進出候に鹿鹿の取戻候
候事
仁和寺宮軍事に總裁
候事

進退の事

二月三日

西里寺之位中將岩佐松物留
丹波口出陣の急人教一小隊可
方出分所抄付の事

二月

天皇不在漢之土古波の事
及之返

以之北垣の事

皇朝一新拒

天皇の進退王儲の漏りの事

花の事と御愛の事

進退の事と地を芥の事

事不有ふ願微焼の事

花の事と定書等の事

後海の事と石の事

と進一の事

柳書報

花より春思のそと集探あり下終ハ
毛以之の程の依之以後地法任人公
杉合集あり下是作是年故の義
の意接下ありありの人敷未らる向義
信成りて故及津より氏出治りて不
主りり是より無いと大受より甲と
の意接り任希あり以後以を札
窮の所より治り

二月九日

児玉使後分

信成り後分

依成りて

たふは

吉井

今収

花山院殿の初之位中将家理御

被奉

内勅後美傳美も支取元後論

と上書品ら遊歩り向法向物美

吾輩下人余及達く候と及一掃以
此係海法極方候と及一掃以
薩島大村 吾輩其外勤と及一掃以
四満意と及一掃以海法と及一掃以
人教米の云向り候と及一掃以
此鄂の北候と及一掃以

二月

妻人名

三人宛

因果百

今般市中一年参及候男七女以と及一掃以
去より少く米全割倉利た候と及一掃以
此有以裁と及一掃以

一 米と及一掃以

人言此方と及一掃以

三人示 此計と及一掃以

一 金八と及一掃以

存り候 三人示 此計と及一掃以

東華集

臨津云云

右之志令致市中之志下りり公成
運送江十波為美加方出也

第十七号

在長濱額利太尼亞官軍庭

子八百字、年方二月半日

皇國二月廿

貴人

一 南月十日我增朝附者推以法卷

以門拂以并急何也

朝廷より法巻修し方司公令是也

地人事勢力を扱高令者位方高

政府法部より裁成候仰者に深

令披覽修養以

一 外國人性急示而物物事是下力高

法巻修り下且一万事條仍西送奉

下下修り下一示示有於物云也

高防左坂山に取小三ノストルミ少知と
文りとい各任改権の部く後波中
い後心保及回文い

里下若深居志

少と殿下トコニエ

これキニスブロウルス

長法改府の部

大名方古居元

長月長

若及昌と次

右之辰美り中し紫の座ハ也怪海言

高月音

依師信助

長法浪江



村号道江橋

村号お換橋

小川丹小橋

右山麓浦水標

梅口決水標

右川原水標

右山中上心後前嶺之改進可中上段

望

右山中上心後前嶺之改進可中上段

右山中上心後前嶺之改進可中上段

清内用

右山中上心後前嶺之改進可中上段

牛乳とんぼ
乃七二五

河内状書之仕に去十二日申判此分
弟島山入ノ商人少少安にあり今少共
只今ノ網をく方少少安にあり并
藩別扱書面安に通掛以知報安
人之言中ニ火消拂ノ人ト云ク之を
お火方ノ有ク此ノ事好抄ノ様子并
少少来ノ決ニ此ノ事好抄ノ様子并
お尋ノ人ノ事細ノ様ニ事好抄ノ様子
何角大坂去大番ノ決事生山ニ付

極口使口
河内
乃七二五

今夕の薩列板の屋敷に早退の志
の由新主薩列板の事は屋敷に
車、尚本町の拂、の積、の道、の道、
の物、物、は、之、有、る、在、由、依、り、去、り、
又、切、り、取、り、去、り、去、り、去、り、
取、り、有、り、今、此、の、事、事、事、事、事、事、
物、事、事、事、事、事、事、事、事、事、
事、事、事、事、事、事、事、事、事、
我、一、波、前、仕、己、指、い、義、事、一、也、也、也、也、

わ、何、成、大、事、也、之、押、福、義、雅、量、機、合、
お、少、い、分、何、道、也、尖、の、尚、不、之、道、
事、之、場、合、に、辰、中、少、い、分、何、道、
の、道、也、之、事、事、事、事、事、事、
外、儀、事、事、事、事、事、事、事、事、
高、人、と、云、々、事、事、事、事、事、事、
中、事、一、事、事、事、事、事、事、事、事、
事、事、事、事、事、事、事、事、事、
事、事、事、事、事、事、事、事、事、
事、事、事、事、事、事、事、事、事、

猶又篤其美會見留於中合其品之禮
尚書正其級十其以子速一其義之合其
薩列柳少厚安示且接通掛大之
人述言通以難其收社之口以事其心也
滑細同以清其心得之者及二階
寔之何也及無法甲有以十其以
尚又述其任居之禮之其美合見其
事如安之高人人之其通之成中事其
於物薩列柳少用速一方決其通其掛

吾私為其任人其清厚安其其其其
人之其其其其其其其其其其其其
見其其其其其其其其其其其其其
人之其其其其其其其其其其其其
少其其其其其其其其其其其其其
初其其其其其其其其其其其其其
其其其其其其其其其其其其其其
人之其其其其其其其其其其其其
其其其其其其其其其其其其其其
其其其其其其其其其其其其其其
其其其其其其其其其其其其其其
其其其其其其其其其其其其其其

此の如くして、而して、中刻此法、其より、
因及、其津、動、其、夜、の、浪、江、の、
四、稱、飯、の、後、
は、蘭、の、
あ、つ、
と、
二、
仕、
同、

一、
多、
何、

一、
同、
多、
何、
浪、
多、
何、

水島公通詞系不後人後門と申
奥口と通少片一尊而九二時牙
之方多と酒者未か之會意と推し是
別 且庫者人か之朝津河のり
英吉利と英吉利の船に乗る傳し
山田守子と英吉利の船に乗る傳し
之後何由と英吉利の船に乗る傳し
今或る五英吉利の船に乗る傳し

三山守子と英吉利の船に乗る傳し
山田守子と英吉利の船に乗る傳し
之後何由と英吉利の船に乗る傳し
今或る五英吉利の船に乗る傳し

英軍艦兵庫の五月十日出帆の事
去法と云
一月八日我多火之信軍福利
一月九日大坂の城は英吉利の船に乗る傳し

一 分し部名おちりし一官軍大坂惣因
お成を大坂市中一子残焼失

一 同日江戸へ急使に辨

一 古軍艦を中津河急使に辨

一 大坂をり敗走

一 官軍士大坂とるま焚拂へり

一 英商人長庫英船に中津河急使に辨

一 ストルカ中津

一 大君河を急使に辨

一 是を英人居田地在遠入り

一 大坂をり英船を中津河急使に辨

一 中津河急使に辨

一 運送をり中津

一 大坂をり英船を中津河急使に辨

一 中津河急使に辨

一 中津河急使に辨

一 中津河急使に辨

一 中津河急使に辨

形後早速任事之數故去之復思之
病刺川入中而令難於成依之
中用是道也亦云都之通國格也亦其
方曰若我曰人之實治兼利之通國
曰曰若之英法探案及我後數年
又此其意人等之意也亦其是也
昨日復之及及延善辰中少苗事
中其善之方少事也亦其是也
善之方人復後中復之善之方也

曰若善之方也亦其是也
是之善之方也亦其是也
法而後而令之期其利也亦其是也
今日善之方也亦其是也
之善之方也亦其是也
何若之善之方也亦其是也
庸之善之方也亦其是也
亦其是也亦其是也亦其是也
亦其是也亦其是也亦其是也

右の字は人の心は水は是れ山は根一中心より
本中少の筆

一 同十四日

此言及表後直は横は又は流は又曰流
庸は由は又流は又流は又流は又流は
是れ本は又流は又流は又流は又流は
是れ一平一平
右の字は人の心は水は是れ山は根一中心より
本中少の筆

正月十四日

佐野信助

岩崎浪江

村是辺江様
村是相模様
小門丹下様
古川古川部様
樋口浪江部様

古川系女振

幸一
古川系女振

古川系女振
古川系女振

古川系女振
古川系女振

古川系女振

市月用

忠信謹言

此月用... 忠信謹言... 市月用... 忠信謹言... 市月用... 忠信謹言...

...

...

...

...

...

中田田

水手由是也

以月状破之在公者亦日許矣甚深
涉種美以後以洋亦成之乘物未
也通涉所公以後若可中之如部
涉所公思程緝言

西月亦曾

依野信也

岩清浪江

村園邊江標

村田桐操

小川丹下

右川善浦

樋口鉄冨

石川兼山

西月書目

一 征後撰抄及支村序之忠臣之書由

抄系云云之書

一 將軍系書卷八後人牙牙方門連

西月七日右撰出和同天皇府右左軍

加美長左衛門

軍田田守

東山院

右記百人牙牙同傳之西月十日

如取回生目朝形各一廿力取三力一各府

金津彦房形各一廿力取三力一各府

如取回生目朝形各

一 彦房形各一廿力取三力一各府

一 彦房形各一廿力取三力一各府

一 彦房形各一廿力取三力一各府

一 彦房形各一廿力取三力一各府

一 彦房形各一廿力取三力一各府

内南詔云彦房一各府一各府

一 彦房形各一廿力取三力一各府

一 彦房形各一廿力取三力一各府

一 彦房形各一廿力取三力一各府

一 彦房形各一廿力取三力一各府

一 彦房形各一廿力取三力一各府

一 彦房形各一廿力取三力一各府

一 彦房形各一廿力取三力一各府

一 彦房形各一廿力取三力一各府

一 彦房形各一廿力取三力一各府

迎去タリト云

右三月十九日夜至國人引見于下守云

同音

北境出候之及人中に使云方試り受

り出く也及迄各いり郡市を強擧

す及候佐及下下取節の事

三月十九日

厚田吉房

藏田吉之允

三浦浩
大なる元

南河 年参元

今叙

皇朝 沙一新

花山流 前之屋中將 家理 与力 九品

法拒

の奉

内勅 豊臣 御下 渡御 是物 而 皇 尚 爲 善

人心 不在 合 月 之 限 難 之 故 也 右 蓮 塚

是 法 愛 意 以 依 之 物 也 人 心

不夜店合之唐抄も古之及流甚可
くして出展ししは又之を蘇業恭惟奉
へて後世に多量に之を那中及人々
一同集會し之を又後御奉被
天恩及存意に主公之旨に申す
交わす方ありし上
以て札持の書

今段

皇朝一制分九品岩法拒

花上流亦之任中將及被奉
内勅堂品に後神は是物と之業
尚多人公を度合之致らば侍少
流業方及り候に原今日而是出展
侍更之流合之及人々多量に
先利少少門拂名を此後之更
少く存意に之を原に全ち之
終の法之共生之業と之業
終法其人教り方公の事机俱法

京の信判中、彼公の信を被下り、
如之

四月十日

友人名

北後法皇

法及人元

法皇北後母見公を令殺
皇朝法皇一親亦九品力法皇
元上法皇之信中、御孫等
御内勅書示す也

法皇北後母見公を令殺
皇朝法皇一親亦九品力法皇
元上法皇之信中、御孫等
御内勅書示す也
敬は是
法皇北後母見公を令殺
皇朝法皇一親亦九品力法皇
元上法皇之信中、御孫等
御内勅書示す也
敬は是
法皇北後母見公を令殺
皇朝法皇一親亦九品力法皇
元上法皇之信中、御孫等
御内勅書示す也
敬は是

先之執之者以法為之治之

二月廿九

北後出後

及人中

後城中信人快

兒玉後後快

以花札中入の物名天去十八日寫家
如後了の品名一為之寫極の一夜
波近去示後の願色お通而邪農等
集更海の村意少く由波系初八室

無の候方くし信快好致の極子空室
候の分女下の押考是の心分人氏快意
在也の如後交際之波ハ我地之候也
可の信屋以の商陳而年と色也の打換
方くの大宛と手換ヶべん十挺葉おの軍
為之必利もて方くは界難果也也
之御無遠札お後了のあり交後之
了の返天公妙之

三月廿九

友人公

苗号近去

以人中

法札汝梅元以何名去十八日法出後
之受取其一應之口向言也夜近去
亦後以何名也農云集文汝之利之
也之由口由云實也云云之候方之口
好致之候云是服候之口汝地口押寄
口是也亦候方口候云之口土地口口候
交汝之及之口我地之候之口是也云其

口汝分年之口色之口口汝方之口口汝
之口候之口口汝梅方之口軍急必用之口
之口之口其口雜果木之口之口之口之口
口汝之口汝方之口之口之口及之口之口
口之口汝方之口汝之口汝之口汝之口
口之口汝地汝之口汝之口平日之口之口
口之口汝方之口之口之口汝方之口汝之口
口之口汝方之口汝之口汝之口汝之口
口之口汝方之口汝之口汝之口汝之口
口之口汝方之口汝之口汝之口汝之口

着衣の善く候方との事候と云
高辻公防禦も亦交寄人の事候
法座公且い後
皇朝一初
花公溪杯九品出の法極
所内輔是知の法座
寺不換方人公一法座
流蓮方より品限り成の法座
法座と候と云
好教の存考
海属片在の
の事
其の座
子連法座
下試儀
也

心り

志賀又

大将英

治末任之
村田若公

借城口信分換
児玉後援分換

目録

大村後分同後分 来字書目録寸取抄系分出
抄取

二月廿一日徳川氏へ云大奉へ上京

方々之薩長へ云伏大兵我岐へ白
入系の方面へ及及急揚の得也一向
多少入吏下我年にお成内見一面出給
之日七の所分給度す到也分好云々
曾給言所い我給へ之日と云下多好
高我お給へ是也給度へ我言は日
去るお止る中へ言所此給お給へ中へ
史へ款迄云様去給へ中へ此云々
押寄也候へ迄迄へ候案へ款迄云前

かき流死るる死もかきく額古絶七挺
分捕りし所ハ山流密林救多丈より
横古路に集り如田相与家も伝て歩り
辰ハ早所之流しハ前ハ丁才
天ノ下凡物より災又横火成之紀
地多山以交要高の地山も交派凡
此上ハ流集り伝し下もお進門上
伏見ハ集り交焼流も河事も之
流しハ人救かきくハ山流ハ
名所大原も焼失其乃河交も山焼
額ハ石履を括ゆりハおん多母横古路
少少ハくハ情不も我ハ島友軍
勝利ハ情ハ智徳も之流も所城波
り事多ハおん中ハお伝も我場も之
お事所も断く伝傳し官軍ハお
り電ハ情ハ下伝も額も之皆報し
おんハ事ハ情ハ報も之方人集り
てあり官軍ハ我ハ之も之同ハ

とありて京春ハ雲泥ノ遠カラ均共ニ薩
長ノ曹ハ格別ニ以テ禁門内外且
大津日ノ至是外ニ及至ハ法中津
カノ人実ハ壯觀ノ事ト以テ
幕ノ内辰中々尚毎回交儀ヲ遣使
可中ニ公伏見通^{フカ}文西^ノノ兼是
固^ル中ノ至之日快別ニ至^ル云^ハ家
所^ノ中^ノ来^ル私^ノ法^ノ出^ル云^ハ及
長谷及下^ノ方^ノ派^ノ大津^ノ法^ノ書^ノ上^ノ辰^ノ中^ノ
法^ノ書^ノ東^ノノ方^ノ為^ル所^ノ深^ノ方^ノ其^ノ法^ノ方^ノ致
中^ノノ方^ノ使^ノ前^ノ河^ノ波^ノ産^ノ根^ノ仍^ノ系^ノ大^ノ例^ノ
因^ノ和^ノ乃^ノ辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ

進部

六日ニ強兵男中辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ
八日ニ強兵男中辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ
九日ニ強兵男中辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ
十日ニ強兵男中辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ
十一日ニ強兵男中辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ
十二日ニ強兵男中辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ
十三日ニ強兵男中辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ
十四日ニ強兵男中辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ
十五日ニ強兵男中辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ
十六日ニ強兵男中辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ
十七日ニ強兵男中辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ
十八日ニ強兵男中辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ
十九日ニ強兵男中辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ
二十日ニ強兵男中辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ辰^ノ中^ノ

の庄の大津音彦招きもは長あは流儀
と云ふお汁はあしりまの長あは流儀
お汁とよ系とよ若きも水とよ系
まふ門とよしりちり無多し故うけは
あしりとよ系とよ事い流儀もゆら系
えゆらとよ系とよ文とよ後とよ系
おゆらとよ系とよ長あは流儀とよ系
ましら付一筋とよ十人汁とよしり
長人もゆらとよ系とよ流儀とよ系

流儀とよ系とよ流儀とよ系とよ系
お達とよ系とよ系とよ系とよ系
つ前におゆらとよ系とよ系とよ系
ゆらとよ系とよ系とよ系とよ系
ゆらとよ系とよ系とよ系とよ系

一月七日とよ系とよ系とよ系

一月七日とよ系とよ系とよ系
とよ系とよ系とよ系とよ系
とよ系とよ系とよ系とよ系
とよ系とよ系とよ系とよ系

世にたゞし物火の遠り事一甲噴三層扇
藏の爲に大飛及物火の或家の治法傳藏
傳り或は西洋板の何事可白布く
傳卷、夕久と威陰のち板才の性表
く移り或は若く切替減収爲りきり
の法に別の日形を都合之度とちの如表
迎ふると少少積ま仕へ有し 仕合に
今又改年お始に市中傳に市中と
少少家代行付た爲に同より改し

為し之は夫とて治るべく飛積事重主に
□アリ又ま幸方田合にお運八の老若也と
治る迄何れし家も高事を捨棄は近
支度色一形と有りくと明居の家は
何れもそのお求の治め来り市中通り
仕合忠愛事しは仕合

一 右名を四々ある百は品物表、事
起りい治る、表改お分り市中の傳は云候
方より治る候と候とて是傳の如表

少少燒失る品川仲取と又と及合
在りといふ

一 南より夜休る所品川を燒拂く所
死人多敷敷少知

一 以度徳川方四無人より長河伝有く取人
千人の取とあるは種同根し何之とありと
上り下ると云ふは及付く胸札と標下付
取付角と下付と一の堂内にお積有る
京都の河原のそとに取多と云ふ云

邪云云

一 禁不庭と申す夜を度云に度云云云云
兵士敷多と望固し由

一 四角赤白江戸法中丸西の丸も少少焼
失り由

一 二月初お湯金の名を焼くも今も今も

二 二月十七日号庫は出かうハ部分焼
西村少くは状

一 二月廿日迄の少城少城

近來

八日右坂法修之つうこ又こ又こ上ル候様
拂之由

一 軍之不出門拂之候下各回之こ又こ上ル
右軍艦之數多發之候と云人上陸候と
候付向之候様

一 土日登後市中お候きり候と云出らん候
云人下日中入候難候候由事柄
お候と云候云人候日中入候様候候

行付少候様候事有り又云厚候と云
近のり有り候候候候候候候候候候
苗頭をりお候付少候様候事有り
候と云候候候候候候候候候候
被清出候人多人敷上陸候候候候
候候候候候候候候候候候候候

右事柄は右所西ノ宮ノ様ノ云候事
の候の候候候候候候候候候候
軍艦之候事候候候候候候候候

お成之入子初ハ是分市中お獲は各
何故不ろくハ存物者ハ物成ハお成ハ
左様ホ美人ハ不ハお成ハ付成ホ不ハ
美人ハ不ハお成ハ勿論何ホ方ハ不ハ
方ハ不ハお成ハ市中ハ美人ハ不ハ
お釋りハ不ハ不ハ不ハ不ハ不ハ
明家何様ハ不ハ不ハ不ハ不ハ

一 土日夜更此ストコ日旅入津カラバ久
但スルキハ不ハ不ハ不ハ不ハ不ハ

お信人ハ不ハ不ハ不ハ不ハ不ハ
お信人ハ不ハ不ハ不ハ不ハ不ハ

一 何夜アメリカ軍艦ハ不ハ不ハ不ハ不ハ

お信人ハ不ハ不ハ不ハ不ハ不ハ
お信人ハ不ハ不ハ不ハ不ハ不ハ

一 何夜アメリカ軍艦ハ不ハ不ハ不ハ不ハ

お信人ハ不ハ不ハ不ハ不ハ不ハ
お信人ハ不ハ不ハ不ハ不ハ不ハ

久留米同

狂合子波之

是ハ今日ノ争候也、其分ハ、
裁ク者存候トモ、其分ハ、
何クモ裁クモ、

一 西月昔言、此ハウシホト、
友人才公、疾、

一 当地ハ必、
之、

一 事

一 今日ハ、
張、

一 事

一 學、

一 海、

一 事、

一 病、

一 事、

一 事、

出版しより介何しと夜安公事

正月

長列

一月三日十三日と五日夜安公事
一月十日大坂表法御事

以前揚子と云ふ大坂表別と物候安事

以前何付將軍振法向と介と方安

以前右軍法釋と方と介と安而却撫

安夜出候と夜候也い旨則中と夜返

甚るる

但根原少く若くは介と東市部古

以前津高市公事今何と友安

以前中候主と候と介と夜候

以前何と是又介と事出と事甚く

正月

薩物及不

三月惣年事

江戸本陣物年事と夜候公事

何付物事と夜候若候何の何板

後軍法と後と及棟東安及の何候

既、近致久、釋、繼、一、途、ら、方、難、教、を、奉
名、波、内、毛、^本、業、を、受、て、及、出、積、を、之、

正月十日

美、一、城、後、傳、成、し、を、去、り、う、り、く、口、如、深、

二、所、由、の、事、

一、惣、年、考、以、り、し、及、く、お、節、り、を、大、と、珍、
そ、と、く、也、と、伝、り、の、事、

一、制、札、法、令、未、一、切、そ、と、く、也、お、之、の、事、

一、米、穀、類、買、入、り、の、事、一、切、波、ら、ぬ、の、事、

一、浪、川、筋、年、始、り、お、成、り、を、無、懸、意、甲、し、

一、是、送、去、完、つ、概、つ、及、事、

一、市、中、の、所、由、先、り、お、お、致、し、及、り、概、し、

一、公、令、の、内、に、お、お、割、り、を、及、り、可、

一、お、建、の、事、

正月十日

一、正月十日、今日、お、お、列、を、去、り、方、難、固、
友、を、お、お、神、を、所、由、し、し、海、中、角、霜、
一、お、お、士、教、を、お、お、我、を、危、お、お、加、り、を、

性来画ノ二

日本西ノミシノ氣北ノ人方ノ内ノ氣分
カラバノニストレ方ノ拭合モ借中ノ四時
河別ノミシノ氣分ノ後ノ勅命ノ力
以テ証發ノ清自善ノ由

今十字一ノ案標ノ庭雲品蒸ノ氣分ノ去庫
津カノ下向方ノ

彼亦傳神ノ市中ノ伏兵多ク風分
右ノリヲテスノ事無ク台士教多上陸

四ノ家無改ノ事

是迄法ヲ端ホテノ事分今自始ノた邊
ホテ

重百八倍七ノミ

派後ハノミ

米音ノ珍

左坂方ノ長長去事ノ入坂ノ向ノ如クお釋ノ
ノ事無クノミト後燦一切無ク
今ノキウニウ板モ横横ト向ノ帆

一 尚用し品何ぞの板木は辰か未申

一 神戶の家の七前迄近去り江明家の二

一 長川の津交神戶市中太成寺の社

一 寺号おおみ

一 長庫神戶市中の四丁方長品屋品

一 方の女家の何れも尚神也屋品方の神

一 存し方の白備あり長川方のたし方の白

一 備あり

一 二月の七日と云は屋品人々の交り

一 切替の者津筋より八日不集り屋

一 長の勢より津の両方の及ぶ所何方

一 ら九の近去にお成

一 津屋の主人を人々をいふ所は在り

一 中にもフロイ又云云元信信板と云は近

一 門の事し門迄在り

一 又十有祐戸河はし美人のたれ未お成

一 信集りるの来りる又屋品は切替はら

一 多戸別子後門方にお成

博覧強記

古事古物考

一

二月廿五日

浪心友

信仲友

一 以後の法之例に基いて凡て之方を計り長品

勢の如くは成る今日侯多し是れが以て

長品

正月十七日アメリカ城に徳川家吉士凡

五人計に便服御座候旨申上り候

御事お終り候事

右の如く申上り候事

長品御事お終り候事

長品御事

市川用

市川用

市川用

市川用

市川用

市川用

市川用

市川用

市川用

市川用

市川用

市川用

市川用

市川用

市川用

市川用

市川用

市川用

六日附

四月十七日アメリヤ州不徳川家者之
...

中々由事と
抄る

以内状語之法去月者有改差中
以後進之信少信之紙束家車入
赤穂山以紙為中上之如新赤石也

五月廿七日

依野信助

岩濱浪江



村園近江標
村園相摸標
小川丹下標

古川 皇清大御様
樋口 決口御様
古川 采女御様

山口守

薩藩 松方 助左衛門 今後所
御書 字 取 通

一 先叙 徳川氏 之 根 之 疑 意 下 江 戶 鑿 師 之
暴 妾 之 一 卷 移 示 不 川 兵 庫 中 為 我 船 之
所 押 之 砲 擊 之 如 之 至 二 日 於 伏 見 之 濱 也

兵 官 之 交 干 女 以 名 叙 年 竟 必 為 自
朝廷 之 後 出 市 津 渡 古 之 大 典 也 始 以 後
全 以 國 械 之 古 心 所 以 然 也 如 此 之 後 志 回 東
臣 子 之 思 也 與 廢 之 其 志 多 也 情 狀 勿
論 之 津 之 後 以 後 之 長 州 也 今 也 可 為
此 一 載 以 之 是 疑 之 也 或 以 津

山口守

薩州 兵中

海山

古川 采女御様

出我書之教並一設承知聲之海新
王之強神到海之海皆長州海及法利也
是言其端法德意以在法在教在法在
言少及在法在上

產別

福山 九家卷九

法兵中校

以衣

朝廷之衣軍 而兵馬之衣向衣衣衣
王政而法衣之於此一層之持海衣之大義

減報之依之一變

朝廷之一邊之邊在法報之中而亦人教法
引揚衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣
依衣法衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣

衣正月十日

福山 九家卷九

別法以年分之通口法衣

朝廷以道在大義減報之依以一变衣衣
亦國法衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣

衣正月十日

產別 兵中

後山

常以老中秋

今程之於三國薩薩善古天樂國今官事
清美每善人教對之德以成之我事如始
以與之早善危去之自

天朝之信然

王政遠播長之如本坊以重之可朝融培
念中又中之博志匡乘德門民君臣之曰義
有之亦中如能之海之也先之也故等句備好和
王之法廣也今其馬善向以出用之也

三月九日

長別兵中

後山

法中如老中秋

今般幕府以作湖在收改權都之節
平古道

朝廷大運云道不事之於我
後山院正之位希在申初及西列之官事
為下善之為遊山中句馬城事之為定

市本陣以爲第一之陣業之爲法也
以之由意推多之及於此處之由法而之
設意接以所先由奉部有以之志三動
毒以爲之心中中達以之性性性

二月十五日

泰山隱居

小山田守力

言東 友門

清東 靜摩

藤村 三節

見清海後

松平三夜以後

市執事

一此十四日取冒市法事口礼物(一多)
之之之火之掛東中能寺山坊中回和
中を致日不之店店市節七也(一)體云
之之(一)子(一)亦(一)有(一)及(一)法(一)不(一)之(一)各(一)每(一)年(一)之(一)悔(一)也
以(一)大(一)能(一)寫(一)之(一)中(一)也(一)奪(一)及(一)夜(一)能(一)先(一)之(一)拂(一)字(一)依

町通兵通津許山光りむ怪我人多
差違ふ人ひ死 日足村橋津
村人定為差出りて為新運公使
右札坊に敷進て津許山公下り
風吹ぬ中須賀に在る方に
東山所先全精神に余り
之好山志事申須賀松原に平人
右是向神に衣被用し高長通
下田津津津一口に藏西唐及如行

為發去已高喜人兵其梅子
以東四日市津許山光りむ怪我人多
津許山志事申須賀松原に平人
右是向神に衣被用し高長通
下田津津津一口に藏西唐及如行
津許山志事申須賀松原に平人
右是向神に衣被用し高長通
下田津津津一口に藏西唐及如行
津許山志事申須賀松原に平人
右是向神に衣被用し高長通
下田津津津一口に藏西唐及如行

後を以て未だ百萬人を以て爲す
白布を以て衣にして行山は持たざるに由りて其の
人數亦るに如く百萬人に程し能く山河を
實を以て七十人位に由りて其の
由りて其の山河を以て
後を以て其の山河を以て
其の山河を以て其の山河を以て
其の山河を以て其の山河を以て
其の山河を以て其の山河を以て
其の山河を以て其の山河を以て
其の山河を以て其の山河を以て
其の山河を以て其の山河を以て

對之めりて有るは其の山河を以て

廿六日

後を以て未だ百萬人を以て爲す
白布を以て衣にして行山は持たざるに由りて其の
人數亦るに如く百萬人に程し能く山河を
實を以て七十人位に由りて其の
由りて其の山河を以て
後を以て其の山河を以て
其の山河を以て其の山河を以て
其の山河を以て其の山河を以て
其の山河を以て其の山河を以て
其の山河を以て其の山河を以て
其の山河を以て其の山河を以て
其の山河を以て其の山河を以て

古批評すべし倭兵勢甚盛は
始り多しは其の事也
朝命を免今自派系派達有る中
国形勢極小降系非故同西國の方ハ
名
王政代し中国松山を和士討て
後日の中と日と平治中と中と素在
既にお破りし進て東河の山隈有る
軍糧人殺す事未日限りわらふ

十六日

は山方死部合羅之人は百
証付に和吉官今浪花中
市宮津和國中勢出越守山宮
之者山由山國元と事未去る
知事よて倭の山掛念に事ら
兵庫をからハ西唐仕の如
おる山代にも日と出方
おる山代にも日と出方
朝廷に軍糧四艘程を買入る

也
古
三
法

南港之良經在法
經淨無一
柳法老力
久世之
伊及
志推斗
吳
中
法

九

所
用

水至市東也
按身公

以月狀勝之任公去月本七日時辰
係清德善以授以祥而後止傳受之
件之候未之馬車入清流以候蓋事上
此郭清歷公忠懼清言

二月廿

依野信如

岩崎浪江



村園近江橋
村園相模橋

小川丹下杯
右川蓋浦水杯
樋口漢口水杯
右川水母杯

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

同朱七日

今日分長品山廣揚升謙房今田九市
児玉順一形今張不出張おあひ事
揚升謙房分各廣浩合一流上向中出ると
法巻以洋門拂来と他分各板及及而
日之法出張おあひの終善とる苗而之候
列与各國主人交流く地不揚以十協
市中之人氣初揺舞く板の法極おあ
其取新揚く清而至方を流

朝廷は清の宗統を承継するに在りては、
法を凌ぎ流を越え、教を授け又を承け、
其の法を其の内に條理成便を是とせ、
其の先の去るに及ばず條理を承継するに
朝令條儀を清の宗統に承継するに
其の法を其の内に條理成便を是とせ、
其の先の去るに及ばず條理を承継するに

皇國の清の宗統を承継するに在りては、
法を凌ぎ流を越え、教を授け又を承け、
其の法を其の内に條理成便を是とせ、
其の先の去るに及ばず條理を承継するに

其の法を其の内に條理成便を是とせ、
其の先の去るに及ばず條理を承継するに
心素より其の法を其の内に條理成便を是とせ、
其の先の去るに及ばず條理を承継するに
此の法を其の内に條理成便を是とせ、
其の先の去るに及ばず條理を承継するに
其の法を其の内に條理成便を是とせ、
其の先の去るに及ばず條理を承継するに
其の法を其の内に條理成便を是とせ、
其の先の去るに及ばず條理を承継するに

一とを素より深鞠王交心し回痛也
從中第由りと名滿清沙是名と抄書
急

朝廷は方出此何と方くハハ後
おろハハ沙一源快沙同義とハハ
沙回痛く沙方と細兼知法及甚
号先の秋ハハ情トハハ未ハハ知
抄禁回ハハ後沙存ハハ返ハハ朝敵ハハ
沙名回家院感ハハ境ハハ溜ハハ

旧幕希徳川氏ハハ全私及ハハ懐念毒恣ハハ備
朝威意ハハ令家蹶跌ハハ眾ハハ後禁西ハハ
士氏ハハ同白膏ハハ冠忘ハハ遠恨ハハハ
公ハハ沙方痛ハハ法救由沙ハハカハハ大信美
父ハハ子ハハハハハハ家滅布ハハハハハハ
皇國報忠ハハ志ハハ無價ハハハハハハハハ
負微仕奉沙ハハ一新ハハ属精嘉納ハハハハ
竟ハハ皇國運ハハ抄攝徳川家ハハハハハハ

藏祥退くは下

勅命の分るは少く其根く疑惑と生變

王改つ法吉く大典と妨刺違

朝命つ少少違く其ら交干戈の候未

年對

天朝の吉満爛く衆後

朝款回敵く少少法に及ん徳川家

始末禁制にお力く益喪快心事の詰

此に右候

朝款く醜目と家りく各藩おてても

是迄く徳川家法法服てあり根

無違應を勿稱く候は其存の候も今反款

天陸干戈奉和く過差の懐後く外

少一家の取列候少違恨後方多座万愛

候は其存の物更甚迂濶く候も其存に

如何に其存の候も万一向後徳川家存處

大に其の候もく候も其存因漸変更く

少不存候く何れ迄候

王命遣使之涉安公孫然方如有一
誓書中之誓出之涉安一書安
震襟涉事九以在居公程文四一編換
右之乘之涉同意之方在昔四在惠
上修少之方下之事在居合年四
治之勤王交之西海且又誓書書
物方同意之及大抱因物之及及返答
以牙浪江返答中述之國伴之候在海
門白怒滿之候在令收系按子我年

一乘及德川家為

朝款之公命及之拜法卷門拂木
波之之件之甲速西伴中紙在信
右中台也之遠海今徑弟在之方在
經量依之候場西編之次書少中紙
信也國伴之候之人
對馬書始一家中玉素之勤之候在
畫之之為之乘白在公信之候在
對品家之候朝鮮國涉通信之來

異代沙没藏牙白を存し以意接し後
是を徳川家より云々と交れ是は
皇國より沙没交り徳川家より云々
と云ふ中書也

朝命傳書し沙旨致書を傳へて後
徳川家考

朝命傳書し後より後出りて云ふは後同家

云々と交り仕極云々沙更

王政沙一新 存白の沙更

朝命傳書し仕後白編し後より存白
是より後より西元一に存し多々云々
懐き法答中より末可念法沙傳り及
物より沙折書し沙より方沙法に致
是又沙同書し存白後中述り此後存白
沙同兼り沙更云々致し折書し沙同書
し後存白兼り存白より上より存白
沙より沙法合し存白より存白 傳書考
の事

右抄言書ノ系案ハ肥後及薩長ノ内儀分
幸與ノ抄恩習持出ノ案ノ之其内元儀
可念抄受ノ方傳書ノ抄及後法合
抄成ノ事一を各藩連多ノ内為分候
少没名所ノ儀を考ル抄原主處言案
重及分實効書云出ノ抄成ノ之各所如
可言ノ及法合ノ事一其外唐律候
少及ノ儀を兼与分儀不出儀方を
其ノ及後各藩一候分抄成ノ之儀
素ノ抄言書連多ノ内是又各所抄原キ
一申候一流傳抄成ノ抄成ノ事一

因案八日

所ノ及元儀候分抄言書ノ案肥前藩士
大隈ハ左ノ抄出ノ抄成法去品藩士抄傳
傳左因取抄出ノ抄成知を評候抄出
抄言書ノ案一巡外ノ抄又右ノ事件
書取ノノ案抄原右友人ノ方抄成
一流懸候ノ上抄傳抄案抄文ノ方

可成之事為專信書之成事

抑之書系事件書為之也

抑之書

抑之書

抑之盟者長大之事件、然為萬世不易
回端之以此同盟去之、後不曰事之同
之、以滿意之生世、以巨之保力補助之
以向、如何抑之、終授書記下維
天朝之、涉為、者、決不、心、以、盟
抑之、誠心、之、民、之、也

薄列

野村宗七

長洲

揚升深藏

古洲

依木三亭

鹿洲

玉枝奕如

大村

瑞垣活經

字相傳

升美永泰

對州

岩濟浪江

加洲

高橋莊

柳川

山九尺橋

秋前

木内甚多

花後

今升新橋

肥後

三村序

花前

栗田貞

作加

大隈ハ左卿

平戸

岐部海兵衛

三浦

宗留平力

事件

今度長崎参府 南地近去々季初晚迄
 同程之節方々共示過之浮沈等
 中福之人公勅接之打弁在極之榮
 外回文添之土地行時分 能捨是法之
 正夜分出涉之各藩迄之出令土地之
 及人等中徒地下法接之勿編外之密之
 侮蔑之文以

皇國之清武威之不辱之主意及所
 令減之是也之規則條理之其後
 則不條理方之條據之而重及取并
 天朝之清命令之及不之也之可公平
 結之方之而及法藩各粉骨之力之

在法粹名案、由是兼法、於人、於
京、於、乃、我、年、之、推、境、之、何、德、川、氏
朝、款、由、之、知、之、上、之、法、接、之、事、而、也、浪、以
九、回、一、内、之、取、及、何、之、既、之、肥、之、天、州、豐、後
日、田、也、之、心、之、其、事、之、及、公、之、衣、會、誠、能、之、
滿、之、也、也

慶應四年

戊辰三月

薩列

長列

古列

藤列

大村

宇和島

對列

加列

柳川

越前

能登

肥後
肥前
肥後
年戸
六馬
書加

亦八日土屋海平抄末末紙紙

杵三月二日曉天幕市令案く兵右坂城を築

元系初回奉り大久保系建白書持系疑不

以女人と深ると上系元と之同之白傳人云久

以の度長云之藩伝人云う是は是と誤て曰ク

初令之留し以扱へて久く功建は與之門退也

以もも終押登らんと言て多將市田

支道と馳空り中り至きやうるや新撰但

義り辰は方不しく其乃しく師之火を子事と

蕨焼焼多し 是ハ谷原ノ様記ノ後 多時衛通ハ

武舎支軍とて一量とて薩の兵を向イテ初

取也一幸うり取を伏兵とて大捕に成り江守

勢敵とて追追く 江守の兵人数と知れ薩の竹園方
に人数多しと云ふ云

舎兼大垣酒井あり云と一量とて京原方と

善長とて兵後敵中にお留まり追く門守

とんと地後兵賊兵一量とて入取大將是打

連敵とて追追り云と追追く 後日とて本走

東兵備とて押く是とてさう押追追の二も同所
同所多時衛通の傍村とて火を起す城の抄を

追追け類とて追追り云と追追く 後日とて本走

同日西兵將軍城に籠り官旗日月の旗押之

先子ハ薩土切とて後日とて本走

錦の少路大守ありとて今方とて本走

追追り云と今日接本とて官軍大勝同所と

焼拂 同日とて焼追り云と追追り云と

同日追追り云と今日接本とて官軍大勝同所と

官軍大勝同所と今日接本とて官軍大勝同所と

同日追追り云と今日接本とて官軍大勝同所と

妻亦く固ノ友重の方妾心ゆつて向く
若列く妻亦地及るれ若列共睦を冷し
て近去たり丈方東軍大羽きて回亦火を
裁テ道と切り近去る申し薩長共共傳きて
八幡山凍ス

同七日妻方夜中とのときとて我歸く
極不見少きしむり、薩長共向ハ江兵後高
我妻も此の村々云亦る棄共なき也ーしり
史ハ江兵村言ハ平御守等使ハ人殺也而棄

の未七集ハ依田村云言柳野村國ノ者妻
村を焼て人殺せし丈牧方云薩長共共
親後と一双方をえんと出しとてお氣不回来
百姓をいゆし所ハ合戦とていふと妻云
大級丈中も軍集の人物も村とる品物を採
得近分場合村と火と申す及の親後と薩
事たあらしき収束すみうしとていふ
お出店り交換通カ取しとて又も舎後人二人と

之と扱ふとてお尋ね、後、一同、集つて入
 一、うらもかく、只、つとく、と、切、り、を、み
 一、り、生、ま、を、建、兵、一、と、一、所、に、死、し、若、葉、の
 一、糸、を、梁、の、り、に、是、し、事、野、し、一、心、の、若、も
 一、留、く、採、り、心、と、扱、て、来、ま、う、と、云、又、そ、く、く、
 一、血、の、付、く、り、軍、装、ち、ま、れ、く、と、ま、う、て、病、を、ま、
 一、こ、と、お、は、な、い、小、子、と、拾、て、度、う、り、同、り、焼、天、
 一、橋、云、今、書、大、臣、酒、井、板、倉、牧、師、と、法、住、
 一、同、軍、進、に、お、か、り、近、き、り、り、り、り、り、り、り、
 一、美、向、の、を、九、の、比、の、り、り、り、り、り、り、り、り、
 一、病、に、り、病、人、が、松、林、に、同、も、あ、り、り、り、り、
 一、懐、方、三、つ、り、り、と、病、城、お、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、川、に、
 一、兵、士、進、と、一、進、ま、り、車、に、留、り、紀、所、の、方、に、法、を
 一、求、て、病、に、た、り、同、日、お、り、先、の、城、り、り、と、
 一、一、ま、い、の、火、と、あ、り、建、物、を、天、を、お、り、り、り、
 一、法、長、云、探、多、て、城、の、に、法、多、り、
 一、同、九、日、も、矢、を、り、焼、に、り、内、に、合、業、に、火、を、入、り、
 一、雷、震、一、度、と、あ、り、り、り、り、り、り、り、り、
 一、城、中、に、城、中、に、入、り、て

取とらるゝ敷知事は素より薩長の城中の
所々武蔵の夜中分捕

同十日美田松之

同十日官公此征軍將軍旅之と人汁
沙門寺にて沙門西中親吉の陣よりの家
悦七斜より此留家よりて抄き一之紙物を
雲分分文ありし

同十日沙尖薩長の舟船出大書い及城

先口近海ありし法華の舟より舟の舟ありし又城後

お源一書と此及皮置あり其法は物部
若と連板一市出武蔵一便と町子と中付は
沙船と出板中ハ重なり法品薩長の舟分
きり只一り敵隊の法を捕て沙出元ハ少
りく是ハ田圃に城進討の沙佐ら申元も
大怪と怪しありん川のに標に標にさるる
先向く同出及の事あり美人も懐と冷し
逝去たりといふも欲の皮の長々収少

僕水之志也 万物之中と親之者多し又四
君也了多し道て居たりが位く成り欲し
多し事計し一系事多し

松平之殿 御事 御事 御事 御事 御事
御事 御事 御事 御事 御事 御事 御事
御事 御事 御事 御事 御事 御事 御事
御事 御事 御事 御事 御事 御事 御事
御事 御事 御事 御事 御事 御事 御事

王命 遵奉 仕合 儀中 進言 無事 居以 及
王政 沛一 新 之 身 之 猶 以 不 尚 何 事 之 志
可 仕 於 大 儀 之 誓 言 天 地 神 明 之 親 之 顧 念
文 之 無 事 居 以 及 志 之 必 是 雅 定
侍 之 之 殿 之 儀 之 中 之 儀 之 儀 之 儀
以 後 之 儀 之 儀 之 儀 之 儀 之 儀 之 儀

西月八日

松平之殿 御事

松平 御事

鴻田 御事

星野若菜

松平十右衛門

右幸也元正及

差少を善候而拙言何事内公示書加

候之旨候下及若お交り事十

下公大宛の御書に御事因り候一書

王政に上り候御事候御事候御事

御事候御事候御事候御事候御事

口上員

旧年中 王政沙流古く候候

朝廷に侍出り候御事候御事候御事

臣等御事候御事候御事候御事候御事

延門に候御事候御事候御事候御事候御事

心記仕候御事候御事候御事候御事候御事

仕事候御事候御事候御事候御事候御事

任職中候御事候御事候御事候御事候御事

朝廷沙流候御事候御事候御事候御事候御事

仕公於是一同評議仕分委及古歲事
付之東西懸滿仕在一切在下表上實
係仕儀之無所任以之
朝款之名目之義のりる名公儀古之りく
所及事思入の於仕儀古之於及のりる
朝令違奉仕徳川氏中違付く先津の
仕儀古之一讓及のりる知古之中及難古
交評仕仕新頼公儀之古及古之天子
及他形古不通仕公心忌在頼頼く紙
少極儀下 少仁意く少少古下
少之重古之紙有仕古之古古之古之古
頼頼の紙仕儀古の中仕仕公之の紙古
之紙況宜古志頼公之

長二月

少皇京仕儀古之義

三島勘解由

美康

渡邊多門

杉江倉備

少之通古之古之通之及

卷之八 自中少之至

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

二月六日 蘇州府 案田員 令 蘇州府 抄 蘇州府 書 蘇州府

三月十日 湯 復 建 蘇州府 湯 復 建 蘇州府

蘇州府

四月 通 中 後 湯 復 建 蘇州府 湯 復 建 蘇州府

五月 通 中 後 湯 復 建 蘇州府 湯 復 建 蘇州府

蘇州府

德川 慶 元 天 少 蘇州府 湯 復 建 蘇州府

大 政 返 上 將 軍 儀 拜 退 相 願 以 分

朝儀之上類 忠の少なるを唯方政返上
申すに多かる

朝廷去地人民中保不在遊りる 亦如業
不在安之に在 危誠二藩其共実知の汎少
の遊り即於慶元を事象入の境を歴下并
今素素之者不在敢仕新一暴暴可仕
代後 御中より兵後法極を力仕成の旨
危誠不及二言上り

二四 朝廷の事慶元其の恭順とそり振

思ふ所は侍く 眾不在岩間之見大く 亦如業
可仕後身り多き定圖也 大坂城の門五の事
素の派派と有る言三層の者 門卒之
割る事 亦候は其の今素素先津ト之
關下 亦事起に勢現に波より 六端ヲ完之
上之慶元其状明白始終在歎
朝廷は後大逆之道及子於
朝廷 亦事起く 道も他果不在岩得止
追付の 後身り六端既にお完りと云進 賊徒

沙平治善氏 筆蹟 若くは若敷夜
敵意のり今収に相寺宮 征討將軍
に任いしやふは是を餘無急階おと成と
支端と抱まり者とも勿編假令 穢徒 徒ハ
藩代 臣少く者たり 大倅 懐懐 及 西家
と若く馬くし 志多く 軍とも 言ん 大く
思ふら 沙 採用 一 岩 在 以 依 我 功 功 末
徳川 家 へ 候 申 願 候 候 文 候 文
其 節 とも 申 洋 官 とも 候 候 候 候 候
沙 内 前 候 申 候 申 大 倅 穢 徒 通
或 上 潜 居 岩 夜 候 者 也
朝 敵 目 抗 嚴 刑 可 以 處 心 續 違 候 候
可 以 事 事

但 征 討 大 將 軍 主 上 申 候 候 候
若 令 若 後 とも 勿 編 候 候 候 候 候
し 徒 塵 散 候 候 候 候 候 候 候
深 重 候 候 候 候 候 候 候 候
三日 今 七日 申 候 候 候 候 候 候

出兵不日頃止新必由文之通以
位中号各藩陪從吏卒等之由之
方向上之少者天下奉公之少之由事

西月吉音涉任建。古以之四書其字通

德川慶丸

奥州會津

勢州赤松

濱州高松

豫州松山

佐中松山

上総大田丸

若年考

水井至若次

同

平山常書次

同

竹中丹後守

同

堀京他馬守

大月分

三河伊豆守

松平大瀧守

同守

新見相模守

後樂伎中守

榎本對馬守

牧野古傳守

宇津比布守

大久保之儀守

小栗中儀守

星野豐後守

高力之計次

少室系河内守

大久保能後守

大久保能登守

戶田北後守

室領甲斐守

右今度慶元年款

天朝及狀明白路、共搦と案、
後出、後之、有、事、延、後、干、賊、後、及、送、
取、念、号、の、止、官、位、事、

奥品金津

勢品素谷

濱品高松

豫品松小

飯中松小

上念大田丸

右、唐、王、托、同、意、互、送、不、念、号、意、為、後、
取、上、談、兵、進、放、は、

後、出、事、

但、後、兵、額、也、進、了、和、送、り、事、

着列小溪

濃列大垣

志列高野

丹後宮津

日列延志

石津石帯より次方多し以て止入京
の事

正月

西海道

籠前

肥後

橋本安麿

松室甲斐

列座

西暦三百五十四年正月廿一日

長洲小湊

濃列大垣

石津此近津石帯より次方多し以て

止入京の事附最の道遠し書之今度

賊徒追伐に

信玄法住使中祭におおむし北陸東

二道より先津支藩に

信守成功し後列候

思百二為在儀之為其首之君也
所沙古の事

二月七日 沙反建におろし 穂波之位及沙建
沙書好安の事

今收

朝政 沙一新く 沙高合今十有沙元收

沙大禮の事

沙仁徳の

聖意と天下無罪の域。自遊度号是之
有罪并哀者之維

朝政と除く外一切大赦は

位出たを自後沙以貴討度明の遊以牙

原

沙段意と體徳政之沙而根之位自

沙沙古の事

外國の儀

先帝多年

宸憂、被差在り、又幕府、臣等、
失借、より、曰、借、今日、公、の、お、世、怨、
大、一、憂、大、勢、減、る、る、為、故、に、以、及、
朝、儀、之、と、新、公、和、親、條、約、の、為、取、儀、の、
物、之、上、下、一、波、疑、惑、す、お、生、大、に、公、傳、
充、實、を、回、感、す、海、外、美、國、の、光、輝、を、
祖、宗、

先帝と神靈に對答して遊

敵意、より、天下、の、列、藩、士、民、の、心、を、い、自、り、

奉、戴、心、り、盡、し、勉、勵、を、有、り、事、

但、以、進、於、幕、府、の、儀、の、條、約、の、中、弊、害、
有、り、の、件、に、利、害、得、失、の、儀、之、に、以、改、革、
を、為、す、に、於、て、外、國、交、際、の、儀、を、以、用、し、
公、法、を、以、以、救、へ、り、之、を、以、以、後、を、以、
事、事、

正月十九日大政權を沙汰し、沙書仕為

之儀分探

總裁

有柄川仲言

副總裁

兼外國事務總督

三條 前中納言

兼海陸軍務會計事務總督

岩倉 前中將

神祇事務總督

有栖川 中務大臣

中山 前大納言

白川 三位

月讀

穴部 雅樂

樹下 石見守

若森 內舍人

內閣事務總督

正親町 前大納言

德大寺 中納言

越前 前大納言

土佐 前少將

鳳

將軍曹

大久保市房

田宮 如雲

廣 沢 共 由

神 下 仁 多 清

中 根 吾 江

卯 回 事 務 總 裁

山 階 宗

之 條 前 中 的 官

東 久 世 前 少 將

宇 和 崎 少 將

鳳

會 社 事 務 總 裁

後 友 象 次 卯

海 陸 軍 務 總 裁

仁 和 寺 官

岩 倉 前 中 將

同裁

薩摩少将

廣沢兵部

西御者

會計事務總裁

中津門中納言

岩倉前中将

安藝少将

西田大史

同裁

兼制及裁

三國八郎

小原仁善

刑法律務總裁

長谷之位

細川右京左史

同裁

十時掾

津田少将

制及察總督

萬里山路在夫年宰相

同掛

夜是夜次

田中分西之曲

之是八郎

ノ

細川板湯交持

豊後

北後

日向

大隅

薩摩

薩摩少將板

為津淡路吉板

松平中務大輔板

中川修理大吏板

内後板後吉板

伊東氏系吏板

福美右衛門亮板

秋月長門吉板

木下繁定次板

桐原良孝少将

松平左衛門尉

毛利伊勢守

久富隆行福守

細川右兵卫

細川豊前守

豊前少将

肥前守 对马

筑后中將

柳川少将

肥前侍从

对马侍从

奥平大信大吏

出云守 豊后守

松平、左殿

松浦 肥前守

出云守 佐渡守

墨田甲斐守

御用

此年田
大正四年

大村丹後吉松
小崎花澤吉松
沼崎次八郎松
沼崎甲斐吉松
沼崎佐中吉松
松浦仁道好松
少美余道江吉松

大正四年

三月十九日

水也西東也
抄之

以狀物之在公者之自謂之以此建臨遠地
美以援以解舍族而公之之而後且
傳之之件之次末之馬車之法後公之
為可中之必躬涉歷公思惺惺言

二月十日

佐野信也

岩崎浪江

村是也江極

一四

滿地填人
滿地填人
滿地填人
滿地填人
滿地填人

村邑相換標

小川丹下標

友川蒸浦寺卯標

極口決甲卯標

友川糸女標

西月より白田市より長品藩山口塔より物

之標藩中村則彦の流石書

冒市と出港と長品藩惣督山口塔と物

惣督のちりり受因人の流石全体私書

火奈表の出浪は在品冒市の一筆と水

長品藩の唱札入のちりり受因人の流石

初於是の表に相因のちりり受因人の流石

年久の注波のちりり受因人の流石

標藩流石の者より馬実のちりり受因人の流石

徒且深浪く若未好集少沙洋也之
長幼之念と後一居以才之重く利解中條
得る也知る後以先事野中依田内記書
友人席上言お果也少之押券一内付也
以外幸人長斜以性得也即意是之力九
少之お果は在公太郎意は情事知事是掛
意其介沙意後幸く之未探索之乃而
又之少中仰く候お生也りも細汁進く

正徳七年七月廿四日 同前日 同前日 同前日 同前日

大急死札は以江進中六也と南地高品
得進く今日之百後人入込之未音八の
一同之作は以集也之賊将平野中東莫
多中奴お在九於高而以高札高商お成建札
文云深浪士也之候と唱長幼之念と後
札妨盗賊不業也沙洋也之義り着
進く付五一市但友友人角前乃りへき旨
高今夕今高城峰へ地なり多く打接

一、
二、
三、
四、

大寺換

三井換

浅井換

...

...

辛酉三月十日

二月十日

同藩

小倉

...

...

...

...

...

...

番妻^{カワウ}素高の捕りかたを向く一以舟
旅人お推修と悉く生捕り高文印旅人
往先をとりとりよりかき右と大橋村に
おろそ無残流る捕り右人殺す内以之に
兇害次第から中事より往流るる候と
進んで戸云云

二月廿

移く申文よりありて三素高も取妨あり候
たは流旅流るる候所よりかき中事より往

二月十日龍前藩の多儀前にお出り候に書付たり候
参考流及不為流渡り流書付

龍前宰相

長崎表紙書付は前へ通候

信玉の事

二月

二月十八日参上流及不為流渡り流書付

澤前主水

九列法匠惣督候

信出の号爲公侍書也

但九品之信滿の返回建之事

有旨依信滿の抄書

冬冬長治及而高津坂之抄書

肥前侍従

長治表紙筆書送前之返

信出の事

二月

二月七日肥前信滿大隈八幡の抄書

書状字

一 筆波砂云々令及於系師長治法卷

次之云々抄に 信出の云々甲子九月

去年抄系込お成り後物云々

筆の字云々信滿

二月

名三人

友名

遠与長治抄書之候送前之返の友名

後身より自らお進如美控化令下ありて

一 諸人

一 諸人

一 諸人

一 諸人

一 諸人

一 諸人

一 諸人

二月九日 徳川の村にありて

三月十日 徳川の村にありて

四月十一日 徳川の村にありて

五月十二日 徳川の村にありて

一 徳川内府にありて

朝廷におかれし

徳川内府にありて

徳川内府にありて

徳川内府にありて

徳川祖考の制及英事一良法云
其後らるる
亦変更多し
故に補正の力と云ふ
王の美知と云ふ
皇國と云ふ一地球中
むらぬ海而して
序抄佐い事

長藩の福ふりて我書

今取ら上國藩庶去系
亦當清なるまふ
お始りて平竟左卯冬自
天朝に 伝出の王政
尙級別 朝款ら
朱徳川氏ら 君臣
存亡と云ふ
中合共島方
白編
勅王法藩

中... 長品 各中

... 福心 ...

... 中 ...

... 中 ...

... 中 ...

... 中 ...

... 中 ...

... 中 ...

後示少好 我書

先般以使者以持歸中誠以波乞

及意操以受以反流

朝廷以之人候德川美克送送之至

奉也如事之至最天地奇容手後

上法中

所及所續之流下端以到共馬方句

中何以我書解

長品

後示少好

家元

抄下

山崎虎中及

西津島忠

中ノ尾ノ重政及西津島忠
此ノ二人ノ忠義ヲ世ノ
人ノ知ルルニ由ル也

海ノ舟中ノ重政及西津島忠
此ノ二人ノ忠義ヲ世ノ
人ノ知ルルニ由ル也

西月ノ重政及西津島忠

中ノ尾ノ重政及西津島忠

長谷ノ重政及西津島忠

大村丹後守

其藩事ト多ク年ヲ報回シ志ヲ凌越シ

藩政トシテ人ノ救済ヲ出シ

殿意ヲ糾ムルニ志ヲ勤

事ヲ勤ムル事

西月

追々切迫之形勢、押移車兵上乗之
風勢亦多、以舟為難、先大津迄
出像之舟、但徳川内府上事、少許
以舟為難、舟根、麻暴之、城方
乃安、舟大、於移、徳使、撤合、其旨、故
之方、言、之、此、念、若、押、与、上、乘、机、暴、多、
候、多、之、其、形、上、停、止、候、之、為、
細、故、方、之、及、言、而、也、

但彦根平戸大岡同根、及舟方、於中合

可及、不、事、

西月七日惣替、舟出、舟後、色、津、舟、出、
此、出、り、受、た、り、舟、書、付、り、書、後、舟、出、り、舟、出、

戊辰 十八日

大津出陣

石部泊

但道法九六里、接七丁

右先津

大村

飯前

佐古奈

彦根

同日

大津市出津

草津市泊

但道法九三里半

右

市本陣

北後

岡川

十九日

石部出津

去小泊

右

大村

飯前

佐古奈

彦根

同日

草津市出津

水口市泊

但道法九三里半

右

市本陣

北後

岡川

十日

去小出津

龜小泊

但道法九三里半

右

木

木

木

同

水

水

但道法元堂

右

木

木

同

木

木

右

木

木

木

同

木

木

但道法元堂

右

木

木

木

同

木

木

但道法元堂

石
序本陣
後
固品

石惣督官市探

(Faint bleed-through text from the reverse page)

正月亦日たし

會計事務、拍子隊部白會計事務
裁判所中出札中並り事——

但裁判所金穀出納所、役事——

右、通しおき、参考書、元中、後、公、以、
中入り也

参考書

及不

正月亦

(Faint bleed-through text)

於大坂の坂

今度迄

天朝の運に逐條約の最後にお成り後
外國の使に法布告を成りし外國人
市中に注来し多し其礼法無し其
了るを得り事

春三月

會長事

九条大長

大炊のた大長

一条大長

廣幡内大長

日野大納言

美室大納言

一時正参 朝言及 市河法親也

多し其大坂市一新且 市元後大權

長身の善身今出仕多し。後事

但日野素家宗族官兼中書和少番
中書和少番

迎清前右大臣

迎清前右大臣

迎清前右大臣

迎清前右大臣

迎清前右大臣

次年通城慶花亲奸吏令素家

中書和少番

中書和少番

格別以以思食以看思系

朝被免事

内之系群信中書和少番

中書和少番

中書和少番

廣橋大納言

野之中納言

久世不事相中將

以年未減慶元系 肝吏等企至、但
美瑞以換道茂 朝憲管私利以
件之亦容易汝等友重言 後身之受
大改涉一新抄攝今夜 善格列原
亦元彼大禮之善乃の善格列原
亦憐慈之及自今夜 朝之免の事

但 輝信亦如書不亦者 亦免例

柳宗大細言

以年未減慶元系 好吏之私分之法
朝儀之混、以件之、勿漏或之正儀と
唱一 獲膝乃の心應入全之私利の而業
其眾不怪、以度及重、可也、後身之私
大改涉一新今夜
亦元彼大禮之善乃の善格列原
亦憐慈之及自今夜 朝之免の事

但 輝信亦如書不亦者 亦免例

昔年... 豊臣大元帥
始終趨走干控門以私公破公儀私欲
之玉少彼毛涉不著、物も多し、素
以反、神凡明之、如大政、神、新、長、反
神、元、彼、大、禮、儀、の、り、折、拍、格、列、字、
神、儀、慈、と、以、自、今、参、
朝、に、先、い、事、

但、洋、儀、本、素、不、事、勤、い、事、

伏、原、
中、將

負、外、く、似、ら、し、く、漫、
大、臣、と、思、辨、し、
共、衆、不、怪、以、反、
神、一、新、且、今、反、
神、元、彼、大、禮、儀、
神、儀、慈、と、以、自、今、参、
朝、に、先、い、事、

一、
八、

但、伏、原、本、素、不、事、勤、い、事、

一 今及緘徒進伐の 徳皇威徳に感

ら居候に身の上親王公御下下
藏人法信人 由りて感激高敷

朝廷に法信擲似命忠勤可仕し
債親庄視天すし 功も多し奉割目

利禄と命し行む 大祿も上揚式杯
寄仕居若も多し心 孝少 必く外

事と法家世世多し 祿も多し
法信の御恩に多し心 但しと事多し 廣く

功多し 向ふと成湯 加祿も上揚式
信信の御恩に多し心 但しと事多し 廣く

年ら遊人杖に意に 湯補任言岩在信
号一同其公持る 文武事業精々

勵て法信宗在
朝し人と武も 唯武家ノ業も

朝廷御用とる 事ら 存一切波
度業いそと 文彦も 因廻

習仲秀布衣之士と著る所及流、
軟媚之風と在り上品杯と稱之 花葉
風流と書とよりより後
朝婦人少く通に化徳衰弛

皇道凌夷と云は辰美以二塊可歎
と云ふは向後漢書韓叔と始一先
文武と夫通と云は旦夕湛亮二仕積徳
と云ふ意其杖丈と清憂庸二彼在

軍に對し倨傲不遜第一確執と生し
りるる容易候と号是く一軍を以高來
下部号と云ふ也

朝廷と清威光と候、勅 王と口美
とて世人と歎と全教と今令り有
て方と心と急及下口且今反教令
彼乃有罪と若も吏と言夫と品主
ら書をい候も尚いと急増候所と

後者不撰也 後復得之被
後付函之 若以之兼与之 若公得板
市少法之事 一
所之也 宜公以服藏人 只向法信人
張之 後復之事 一

十
半
半
半

大村丹後守

一 梁河大段實代 以後出 亦抑以 亦七

法出之 亦た之 亦書付 亦法後 亦之 亦入
亦法史之 亦法史 亦法史 亦法史 亦法史
亦法史 亦法史 亦法史 亦法史 亦法史

大村丹後守

今收大和國 為法卷之 我中 仍言 亦向以
法身之 亦之 亦共 亦高 亦其 亦如 亦及 亦勇 亦為 亦兼 亦謀
亦建 亦夜 亦形 亦子 亦之 亦兼 亦京 亦一 亦廿 亦日 亦板

沙少詰り事一

二月

一 兼波崎と云はる 太守杯先月

才く書 石長巻表 佐出九品法住 佐

留下 佐後 佐清 方より 而名 了り 甚

沙より 自ら 考家 佐出 自 同 月 才 九 白

表 却表 沙 多 如 右 沙 佐 佐 次 之 表 杯

四月 南 月 之 見 大 坂 下 兼 氣 江 右 表 佐 佐

り とい 方 揃 と 述 と 西 沙 波 和 四 述 と

巾 合 と 四 掃 板 後 今 夕 携 小 雄 左 表

子 進 高 沙 中 出 公 佐 佐 之 小 沙 波 和

更 合 之 沙 掃 板 何 多 と 四 部 合

て 才 と 小 一 述 者 席 巾 候 了 如 表 之 候

一 井 云 出 才 美 と 名 進 高 佐 佐 品 換 才 表 才 里

進 高 江 才 佐 佐 述 と 沙 波 公 候 之 表

右 表 佐 佐 候 以 法 使 名 沙 佐 力 一 述 才 表

三 佐 佐 才 之 表 佐 佐 之 候

とくし使をよきよし

萬里山路坂の坂

大村丹後守

長崎表取律の

外に出り九列法無総督中候取律方
より届ぬを力に及り事一

三月

大坂におかれし法後

今度法

天朝に送る通律の内取律も成り致

外回公使に法布告におかれし外回人

市中に法来り所無禮之法無し取

る者持の事一

三月

江戸諸国渡り書状也

一 吉士日重及之 家来西丸上可住由分
涉解可来手引少無活片之品也色
之重及一同大廣間口若庭瑞雲系若儀与候
少差原吉及之候活由住涉引是及之由
候坂涉之妻之候同席觸与波之妻
以右之妻方上之候也

上振之事吉士日涉新取同日品帆
今朝思内也

江戸諸国渡り書状也
相平吉藏大輔也坂

上振是涉之候吉士日重及之由
之候也其候涉引候也吉士日重
涉之候之 思召与吉士日重及之由
多相御及之思召也其候 吉士日重及之由
高長品御品人扱也其候吉士日重及之由
思召是之候其候活由中波是及之
及之思召也其候也其候也其候也其候也

其の傳はるる事とすは付流子とて叙走
 保門の門を以て變て
 朝廷の薩長が幕府謀叛と記し
 及奉少の松子と
 朝敵と自法沙法と致大極とあり
 沙希知入全朝敵と書成り候と云く
 傳一止の法出り候と波毛の候と
 あり申す候と極あり候と我事と極更
 沙源候と極又沙源朝敵と致
 候と極上好候と極と極と
 思望の還許實と思入の事と云候
 極更奮及と忠勅候と波の事
 正月音
 忠念の心と極美の度と堂家の沙示
 あり候と國家の沙更あり候と

勅命之致者良以物与在在序官軍
以名山橋之樞要之地守固之底精誠
令力可仕以候涉交在中之公以之

在甲途西元分中進法之人可涉交之

事

在臺和家等内

山秀美之也智

及堂 采女
花押

副將

及堂 九重信

花押

薩摩 少將

其藩事積年抱勤

其志勤

芳名少の事之應 區區京 叙旨建

其の波色周旋遂之使 王道後古

結多と去る三日達成突然北と之加於

内らる表防備其後連我 至之に進撃

軍威之豊ふり事 實之亦古に堪也

而之テ遂に 巨斜 慶元 薩摩 薩摩 浪花

城道多之致建

宸極天威不斜 以承天序 共誓度
共稟元可輝
皇軍積威於内 外以信之 神武一振
而今 忠孝志之 小揚り
神武治り事

同藩我死人

今反就共萃 共藩士之 軍殉回

我死之 共其具之 達 天德之 爲愴

敷情の果 衆の臣 皇の忠 義の地 共觀春 願忠魂千九 萬の介 傷の官 辨の賞

賜金五百金を 藩主より 可領出さる

神武治り事

但一社 聖共忠魂 永言 命系記

聖共事

三百金 長列

同 同列

同 古列

同 度堂

...
...
...
...
...
...
...
...
...

一 小澤東の支道...
...
一 彼中松山...
...
一 長藩勢...
...

降系名没者之可く奪之六カト以て
可攻被之、以後高安初福止日、以
り至之居城之元、明之故之意、揚之上
先之攻順之、建文と相續以位高以日
始、路も無河、攻順之、途、亦、女、長、而
人、教、之、以、今、之、故、之、振、之、以、法、の、

二月十日、無之、不、滿、不、持、也

上之、候、

三月十日、系、兵、於、沙、没、而、之、藏、沙、用、其、

以、後、之、事、也、以、沙、書、付、字、

徳川慶元、互、送、之、分、向、松、平、之、苗、字、孫、
居、候、之、向、後、大、小、之、建、之、各、本、姓、没、
候、之、仕、

沙、没、法、事、

今叙清利及清政三身法備官門望
清以位身主以洛之德幕亲批宛等
如之是菊清及取用之須之仕
清少清之事

但遊付は
位身主は法備出等しく而く以来一派一流
龍菊清叙清後り中於家く了書個は
たり与家く叙取用は清主として力是進く毎は

二月十二日清品高の抄出の抄出は京都の今今
清及不書白字

今盟

- 一 列産去後と共し弟楸公偏之変は
也し
- 一 官武一途庶民の如く進者其志と遂に
一先人心と一して徳を志むりと欲也
- 一 上下心と一して徳を徳痛と以て也し
- 一 智識と在界と求れ之たは皇皇と

一 振 起 毛 魚 也

一 激 士 朔 浪 也 以 て 質 又 是 漢 字 入 也

一 衣

一 激 士 朔 浪 也 以 て 質 又 是 漢 字 入 也

一 衣

一 激 士 朔 浪 也 以 て 質 又 是 漢 字 入 也

一 衣

一 激 士 朔 浪 也 以 て 質 又 是 漢 字 入 也

二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月 十二月

一 衣

一 激 士 朔 浪 也 以 て 質 又 是 漢 字 入 也

一 衣

一 激 士 朔 浪 也 以 て 質 又 是 漢 字 入 也

一 衣

一 激 士 朔 浪 也 以 て 質 又 是 漢 字 入 也

一 衣

一 激 士 朔 浪 也 以 て 質 又 是 漢 字 入 也

虎の交遊の留意く心算のあはれ下り
撰く奉汝の總裁とありて江の表も
人物の智く老を悪く奉用られ表なる
とのなきにけられ一丹與一洗く時と
修征國の法陸軍總裁の勝安房と
海軍總裁の久田城濱及少将總裁
大久保達之海 陸軍大臣 右の法局と
人心の居るはとて江の表とて
成に以て花 一集の白紙く 沙素須
と居るは号の麾下沙家人と長髪と
と汝自ら法出の刊の法
一 一前と後と沙の表とありて人法藩も
りて百姓の人のありて後とありて後とあり
ありて外にありてありてありてありてあり
者ありて江の表とありてありてありてありてあり
ありてありてありてありてありてありてありてあり
ありてありてありてありてありてありてありてありてあり

閩省之變化
出軍事之
以法海軍
日之盛
與正而
精勤
下市
送公

...

...

書

以皮絨
長漆
無邪
不亦
王改
和人心
...

少正堂より及び候事
美事部より
四月九日
...

二月廿四日

今甲辰古例藩依
中東の去月
上系にお
藩品藩冲
列名候
会候
あく
後不出

中出のち我の一候上日馬実の上陸今程
以洋の河陰仕の如徳卷込之水に候及大村
丹後寺候沙同旅の左七日大坂迄及水
同日若原沙忌同旅の右方を主人の儀判り
此の舟同日の帰水同九日同所の出舟同旨
多実の如く水同旨同日の山を表の如く致
多実の沙一泊同旨又多実の上陸也
今程同所の及水也、南港沙寄込の如く
の如く今程の如く大分凡の如く也
吾界船波多の如く、海之今程多実の
及水の如く是の如く、其の如く今程
清水の如く凡の如く、明夕別比洋
の如く水の如く、中多実の如く是の如く
沙の如く、福の如く、沙運の如く、候
入陸陸の如く、事身也、今程の如く、水
の如く、是の如く、是の如く、候
地及城の如く、一候上及陸陸是の如く
各所及門の如く

因夕中、列是法卷、以作の若水、其
後法用蓮花、平之水中、出りて、子連
浪口、其後、下、法、出、名、藩、も、進、く、出、勤、
其、成、り、受、り、子、之、程、及、夜、法、以、自、心、所、列
法、卷、法、之、陸、奥、法、訪、社、の、法、集、指、史、の
西、及、下、の、法、之、陸、奥、其、成、り、若、水、後、澤、換
法、用、人、若、水、和、泉、其、後、下、の、出、後、り、中、の、法、
其、成、り、上、列、各、藩、一、同、之、後、下、の、出、保
史、の、法、用、人、若、水、和、泉、其、後、下、の、出、後、り、中、の、法、
其、成、り、上、列、各、藩、一、同、之、後、下、の、出、保
其、成、り、西、及、下、の、法、の、外、に、法、の、出、速、く、中、後
法、合、成、り、列、比、其、後、下、一、同、門、中、の、法、之、後
其、成、り、先、例、法、卷、法、之、後、及、上、後、法、藩
其、成、り、少、及、麻、下、の、法、之、後、及、上、後、法、藩
其、成、り、十、三、家、少、及、外、の、法、之、後、及、上、後、法、藩
其、成、り、法、品、士、品、字、和、名、之、後、及、上、後、法、藩
其、成、り、法、判、母、儀、外、に、後、下、物、之、後、及、上、後、法、藩
其、成、り、法、品、士、品、字、和、名、之、後、及、上、後、法、藩

御藏之与家沙免沙出逢平之役縁
法意之沙用入之及沙の中上重者満
回折而後之東河其也輕便之東後之
^{兵士}平法合之及事一在也及人法家法用
是之是也之西麻下之与之也之

甲子

今卯上河浪江信由之渡下出助各番
皇代中探中後之上沙船は力口横原向
皇代中探中河大川北河大村之清土波
平高岩渡出逢北後之重品長品之西番也
清土之出其御加賀橋示哉而柳川字
和号平戸崎家也多火番也之清土
及浪江信由之也西及而沙門之
沙出逢中上之

波戶場是清土之儀重品古村平之
人救也其出河而西及而下重品之人救
也其西及而河外東也之方無示之
人救也其出外浦所入之也其家人救也

彼戸場不祓訪社之沙由乃く小沙
辛子下不ハ以量傳之ハ其整派之有
少人ハ之出出也

乙ノ中列凡德卷法換大村換沙之陸也
訪社沙集指沙乃列ハ沙事示之
以遊身因者之

澤換沙嬌沙連我ハ其成辰乃列中
法換沙馬車去沙江ハ沙嬌沙

海防社沙集指沙乃列ハ沙事示之
江進言者藩一因外浦則入ハ近ハ女選
中上事

西改不沙云修之ハ其藩名示ハ其
惣代其改沙用入之沙云ハ沙社綱
中上如何是哉其報辰ハ報之ハ事示報
辰ハ其改ハ其奥列乃ハ其力之ハ其藩一因
法換沙同遊ハ其身沙事之故大要
たハ遊

何意之初

今及京接百經授之於後以洋法登
河津始江戶及人及俄之南地門律以
而名不速在後者流之士尚必習其儀
之中之一人交際向來者其不取
疑問先即進悉其一事之意更之細得
之其板及意對其又市中初據之即
先之是進之也其以南分法授之通令
法記其始之而進之其武國之始也

其為

朝命之由進之中誠之致其法甚
公薩何志也心倚方奇抄之其志之
少其公物更之有之或以九列惣替
且以洋法授之任別今日下之志之
以分其自今門更乘政奉載之心得
之其何志也明日之也其不及其向
之其志之其志也其志也其志也其
是進何志也其志也其志也其志也

自分事として、廣く法家の國柄に、
海東右法支家、浪、沙、國、作、業、
の、位、中、紙、店、
と、も、少、及、
其、也、
少、及、
此、方、様、
と、
と、
と、

同書目

大村丹後守、
事、

同日大村、
中、

望、
正、

不、

天顏少候方寸至純有年壽長保之
因未九日系地及是去者言江取一向
大坂高松今日當地波到云云

大村丹後守

長壽表及侍下
惣智中使新侍方以由松云云方及
の事一

西月

二月一日之書前中内言及分の事云
沙汰出たし 沙書分後

大村丹後守

長壽表及侍下
新侍方市中中望場向
兼之法乱乃一車
指揮次守書勅旨の事一

右之候沙書書寄侍の是必歌

の法公の事

福地治部丞

各藩少及是云

同十七日

古品換心藩仍求之案好分在之返以狀
中束筆一

口溪

徳君信涉仕建候意之至其旨由是
下僕等以力裁辨而之古力之裁判不
矣多謀由及云

位出親有仕合之案好分在之返以狀
此此

二月十七日

仍束筆三

右 名藩連名

一 同夕 既前換少及案田直分以狀候
在之返中束筆涉裁判而涉連書字
在之返涉候云

字

西邊之候如束裁判而之返以狀
右之返中束筆涉裁判而涉連書字

辰二月

九州法廷兼信智
参謀

井上聞多

右の及信智一同高麗志の下のり

岩公持書建云

辰月

信之林之字

裁判不参謀助及中付事

二月七日

一葉田 頁

名滿少及建云

同十八日

市裁判不名滿助及一同市海出

浪江屋出の参謀市判官長力之海換

市送考したる也市口建お成の事

以及岩丸の法廷使中向り年九州

法滿回編一之く高力公持改而参知

没及の年あり西洋の急合以書取

同十八日

年公
二月十八日
与津回回幕候是近河来支死没
及又吉部地号与一与下出
海公海望山过此并山死候
与津回回幕候一与下出

同十八日

同十八日

同十八日

同十八日

同十八日

同十八日

同十八日

同十八日

江戸川

江戸川

物事
江戸川

江戸川

江戸川

2000/1/1

以中林之秋之六經何方民

上之秋之秋之六經何方民

上之秋之秋之六經何方民

上之秋之秋之六經何方民

上之秋之秋之六經何方民

上之秋之秋之六經何方民

上之秋之秋之六經何方民

上之秋之秋之六經何方民

上之秋之秋之六經何方民

上之秋之秋之六經何方民

河内東門外
石門村
西門外

二月廿九日

平田乃之元



高野堂
石門
村園
小門
石門

石門
榎白
石門

[Faint bleed-through text from the reverse side]

水月用名

水月用名

[Faint bleed-through text from the reverse side]

[Faint bleed-through text from the reverse side]

心正身正

心正身正

於民極其年 名利は執事極其世

心正身正 此は心正身正の意なり

心正身正 此は心正身正の意なり

心正身正 此は心正身正の意なり

心正身正 此は心正身正の意なり

心正身正 此は心正身正の意なり

心正身正 此は心正身正の意なり

心正身正 此は心正身正の意なり

心正身正の意なり
此は心正身正の意なり
此は心正身正の意なり
此は心正身正の意なり
此は心正身正の意なり

平昔月字

古川糸女

極口溪四所

古川蓋浦右所

小川丹下

村岡近江

古川治家

治雅堂棟

平田為三九及

古川豆針及

右ノ状去三ノ事達以改去及ノ返云

平月字

平田為三九



治雅堂棟及

古川治家及

村岡近江及

小川丹下及

古川蓋浦右所及

梅白族罗所及
古川采女及

梅白族罗所及
古川采女及

梅白族罗所及



梅白族罗所及
古川采女及

梅白族罗所及

極密御用

辰子生

あまふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ

山極内悉状に依りて
りて用し者りて
沙湾湾中上且又田
控し用ふ中隔周
信信在りお少
其紙中少の志
楊系治人中人
版様沖國洋
此の紙は
版様沖國洋

山極内悉状に依りて

抄の付出船方見合書成居清用向
荒妨考の抄方極密中少の記
抄方与下治人指者其の波面談の上
抄上と云清同通言預段中少の
於捕魚之全清宅波面談の先般長
抄の使者奥印半去其の越山
天朝の罪域と云
處意の中少大教と為の裡右抄
波の抄原と思ふ其の抄中談と

抄の字換抄好言集大の上解方
抄角法原の抄の法使命也通
法使者の勤指其の原抄換も有
抄の合持
抄上系の法之抄國海抄原
抄の上と云清の抄原の抄原
抄原卷
般様派 抄原の抄原

淨國通也 淨土大勝在東地法華云云
淨土淨土在二通也 淨土淨土在二通也
淨土淨土在二通也 淨土淨土在二通也

淨國通也 淨土大勝在東地法華云云
淨土淨土在二通也 淨土淨土在二通也
淨土淨土在二通也 淨土淨土在二通也

天朝之命令也 天朝之命令也 天朝之命令也
天朝之命令也 天朝之命令也 天朝之命令也
天朝之命令也 天朝之命令也 天朝之命令也

淨國通也 淨土大勝在東地法華云云
淨土淨土在二通也 淨土淨土在二通也
淨土淨土在二通也 淨土淨土在二通也

淨國通也 淨土大勝在東地法華云云
淨土淨土在二通也 淨土淨土在二通也
淨土淨土在二通也 淨土淨土在二通也

淨國通也 淨土大勝在東地法華云云
淨土淨土在二通也 淨土淨土在二通也
淨土淨土在二通也 淨土淨土在二通也

淨國通也 淨土大勝在東地法華云云
淨土淨土在二通也 淨土淨土在二通也
淨土淨土在二通也 淨土淨土在二通也

为沙砾松栎香漆表以清苦海牙为工
以接朽之虫使者如勤之松栎虫
匠牙匠虫

因成在石错方登决以下以反揭之方登道

及下以反味集通之匠牙

因青木小皮若成皮反海皮匠牙

目忘云之皮集以个集牙同以壳

匠牙匠味集通之匠牙

右匠味通通之匠牙匠牙

名物流

三月廿日

村園通江



右匠味通通之匠牙

小丹下皮

右匠味通通之匠牙

樋口匠味通通之匠牙

右匠味通通之匠牙

右ノ白汁液

三市

当ノ女ノ通治人其ノ人ニ送刺船送ハシ西行ハ
波海治人ニ送
殿様沖通船ニ拍依乞ノ向ノ港ノ西行ハ
三ノ城ノ松子ニ寄ルノ身ハ及ニ送刺船
三ノ押信波海ノ送ハシ西行ハ

作野全十郎

下ノ世年ノノ取國ニ移ルノ身ハ及ニ送刺船
三ノ城ノ松子ニ寄ルノ身ハ及ニ送刺船
三ノ押信波海ノ送ハシ西行ハ
思フ法事ニ舟勤ハ
三ノ

三月

村岡近江
河雄並城

之...
...

...

...

古野村

古野村...
...

...

村周
...

高松藩之可及
津久劫解由及
林岡田之

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

平間為左衛門

高松藩之可及
津久劫解由及
林岡田之
高松藩之可及
津久劫解由及
林岡田之

三月廿七日
村岡田之
津久劫解由及

之(此)楚(之)及
海(見)物(解)由(及)
林(因)因(之)

之(此)楚(之)及

海(見)物(解)由(及)

林(因)因(之)

之(此)楚(之)及

海(見)物(解)由(及)

林(因)因(之)

之(此)楚(之)及

海(見)物(解)由(及)

林(因)因(之)

之(此)楚(之)及

海(見)物(解)由(及)

林(因)因(之)

之(此)楚(之)及

海(見)物(解)由(及)

林(因)因(之)

八坂 連 氏

有るに二代の侍也。治平五年の去る年
一代の侍揚々。治平の経年を頼朝の侍
の言に教ふに及希く也二代の侍也。
治平の侍一説也。

頼朝の侍也。治平の侍也。同

村山侍揚々

有るに三代の侍也。治平の侍也。治平
の経年を頼朝の侍也。治平の侍也。
治平の侍也。治平の侍也。治平の侍也。
治平の侍也。治平の侍也。治平の侍也。

の侍也。治平の侍也。

治平の侍也。治平の侍也。治平の侍也。

大石侍揚々

有るに三代の侍也。治平の侍也。治平
の経年を頼朝の侍也。治平の侍也。
治平の侍也。治平の侍也。治平の侍也。
治平の侍也。治平の侍也。治平の侍也。
治平の侍也。治平の侍也。治平の侍也。
治平の侍也。治平の侍也。治平の侍也。
治平の侍也。治平の侍也。治平の侍也。
治平の侍也。治平の侍也。治平の侍也。

将に及ぶ及ぶの事と再勅と 治世の

曰

定公右印信矣

方々之代の治世に 治世の事と云ふ事
治世の及揚城を村に 守者中平治年
の教指人云 治世の事と云ふ事
守者中平治年 治世の事と云ふ事
治世の事と云ふ事 治世の事と云ふ事
治世の事と云ふ事 治世の事と云ふ事
治世の事と云ふ事 治世の事と云ふ事

治世の事と云ふ事 治世の事と云ふ事

曰

村心 治世の事

有又事の中勅言に 治世の事と云ふ事
治世の事と云ふ事 治世の事と云ふ事
治世の事と云ふ事 治世の事と云ふ事
治世の事と云ふ事 治世の事と云ふ事
治世の事と云ふ事 治世の事と云ふ事
治世の事と云ふ事 治世の事と云ふ事
治世の事と云ふ事 治世の事と云ふ事

再動之頃
右之趣之頃
後教之上

三月廿七日
村尾進口

島雄三郎

二之巻
津久物解由及

田代
岩谷三左衛門

法方一郎

東栄屋

弟野作進

神原七郎

平素若動
漢合第末列万

方能也
御慶事
并禁令形

之角
及合
京上
信地
及中
以下

古酒中一流小希の四送法河津
と感植蘇令種市の松お流目又
先般為の個令古村部在案の結
部最遊くの個令仕不法く来る
お酒道のとありくも信来概を
蘇酒種市に整答るる松名備を
出資と大と未果能お酒の松芳能
能きこの為古の辰季中物
果成育る村大常勤の酒中及

少酒不常易物候ありく
は身一寸摩中目着用は
酒材の此旨了る酒飲の

三月五日

村因白

為雄首提

三流小希の四送法河津
深酒の種市及

Handwritten text in a cursive script, likely a list or account. The text is written in a dark ink on aged, yellowed paper. It appears to be a list of items or transactions, possibly related to a business or household account. The script is dense and difficult to decipher without a key.

Handwritten text, possibly a date or a specific entry, located in the upper right quadrant of the page.

Handwritten text, possibly a title or a section header, located in the upper left quadrant of the page.

Handwritten text, possibly a list of items or a small account, located in the lower right quadrant of the page.

Handwritten text, possibly a date or a specific entry, located in the lower left quadrant of the page.

Handwritten text, possibly a list of items or a small account, located in the lower left quadrant of the page.

此日... 王... 臣... 刑... 事... 服... 此... 後... 流... 刑... 偏... 此... 臣...

以... 胡... 且... 况... 去... 法... 系... 内...

此... 日... 臣... 王... 臣... 刑... 事... 服... 此... 後... 流... 刑... 偏... 此... 臣...

中法...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

王改法...
...

胡命...
...

年...
...

形...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

其家古抄之目録と其の宗門人
一、宗門人の善場を叙し、其の宗門
二、宗門人の善場を叙し、其の宗門
三、宗門人の善場を叙し、其の宗門
右の宗門人の善場を叙し、其の宗門
之の宗門人の善場を叙し、其の宗門

古川 宗門 宗門

樋口 宗門

古川 宗門

小川 宗門

打石 宗門

上川 宗門

宗門 宗門

宗門 宗門

宗門 宗門

宗門

宗門

四月

友

海内



古川治房柳

小川丹下柳

古川嘉海柳

樋口治房柳

古川宗女柳

古川宗柳

清田用卷

辰五甲子子子

古田清田用卷
古田清田用卷
古田清田用卷
古田清田用卷
古田清田用卷

とて知らぬ
とて扱ふ

いふ所へ給ふと申度長別扱より日使にて
奥部年々とて改訂去月十日末迄月四日揚陸
二五中奉書者没町事以村形示傳書
望上日沙を改訂とて改訂十達事殿と
扇とるに門付と申口改訂の事申出度
及通對大膳主事扱書と申
並書院採市機原未お同且御又子扱
由儀官とてあると申候と申上申上
年去より申上申上此度長別扱より日使

とて扱ふ

ししてはるる誠の身

對馬支様沙邊とあるはうの重の上の在
法道不とあるはうの法家充中格の上の在
とあるはうの身重の口よりお言ひを
對馬支様沙邊とあるはうの重の上の在
口邊の候はうの身重の口よりお言ひを
波指兼度候とあるはうの重の上の在
去やうの身重の口よりお言ひを
法家候

天朝の爲馬の上の清道候の口邊の重の上の在
口邊の候はうの身重の口よりお言ひを
上國候とあるはうの重の上の在

對馬支様沙邊とあるはうの重の上の在
口邊の候はうの身重の口よりお言ひを
波指兼度候とあるはうの重の上の在
去やうの身重の口よりお言ひを
法家候

後漢院有といふ右の敬達
清徳の處
殿様連とあるはうの重の上の在

くろりとの心と遊大膳大吏候意旨候
並芳院様沙汰御承知申上候者御
お返

沙汰意旨の御承知申上候者御
申上候

殿様より今般東御愛勤申上候御
之候を御承知申上候御承知申上候
沙汰切願申上候御承知申上候
上申上候御承知申上候御承知申上候

沙汰意旨の御承知申上候御承知申上候
沙汰意旨の御承知申上候御承知申上候
御承知申上候御承知申上候御承知申上候

- 一 同日の御承知申上候御承知申上候
- 一 沙汰意旨の御承知申上候御承知申上候
- 一 沙汰意旨の御承知申上候御承知申上候

入津山守揚陸軍兵先親領
以事公知天下大形轉且商付の如門
の大切し事件亦甚勝封書とん十右子後
右人太田合字居の 作付是古高取之文
技持之石く大小村の家名之と下小田物言
深と成生との切采と名之返下と毒個
心書二月十日く申書とん海は是年海
の谷年去より振走人
津實夫と申事是方是る卷是及は時村

赤系信方と申書とん返成有との付
前系と申の裁許と 作付の如事と
別國興と紀の事と討討の家と 後志
津實夫と申事是とん右通と
作付の信赤系信と及合及及返言
為の心得申書收束と先言致の
去月九日年去後興とん公拜福
市岡人拂と 作付の如形轉未
津實夫と申事是及人の裁判物未と

一 中三三三遊年平る二秋山休育清酒子
 五其果山の神程未り以下遊去有らん
 一 長別教行没かり力と各胡程通る事
 書面年去館来の此と心志事書信と墨
 少物言きありは書面と及中少の心物定
 たりと山程代及旅宿と七紙直書
 とういひひきり山程得る百石年向天舞射
 振と五出来と沈り歌の
 一 年去所の使去も教回と山去月毎の

出帆有らん

右の候より述り初り度々之候記

辰

三月三日

古川 丹下

古川 采女

榎口 鉄四郎

古川 彌平左衛門

仁尾 源一兵衛

小川 丹下

村岡近江
古川治左海
鴻雅益城

平國為元夜

成事者有...

右山成去子日如達以心...

望

月九日

平國為元夜



鴻雅益城夜
古川治左海
小川丹下夜
仁匠海一守夜
古川治左海
梅口治左海
古川治左海
古川治左海

沙田園記

辰巳月十日

東...子...知

何狀令... 德助... 沙... 美... 打... 委... 三... 板... 何... 大改

清道

王政沙復古也 作出之功曰之清道
而旦沙達白書之介書教以力我
京師不穩 接令之於大夏物夏
早月上由法介新之教事之五阮沙達
又 作出大早令之於大夏物夏
沙探索委細多教也沙之亦知大夏物
不穩行大之教之五阮沙達
七日之休教士之化之先平穩由之海

沙形勢為或之其之腹食不安之也
亦在日

一

沙之沙沙清之為家殊更為節
沙文之也之為遠之五阮沙達
拓阮光般
沙之沙沙清之也
沙之上京也 作出之也又之五阮
胡余之為家以月之沙之類也

沖上京々遊山遊水交々々 作出幻以
別紙持以意の通表

沖出席之と山家沖

沖由達々遊於山中 後出府法書
家不知何々後心得言々々及源達の
物々以那社法國力と竭速々々々
令病々々々々々々々々々々々々々々
中々々々々々々々々々々々々々々々々
中々々々々々々々々々々々々々々々々
中々々々々々々々々々々々々々々々々

沙國の一般發之経道の
出京迄尚或苦心去々々々々々々々
途大小及々々々々々々々々々々々々
復次々々々々々々々々々々々々々々々
及中法所系々々々々々

不云易沙の部今所々々々々々々々
其後得々々々々々々々々々々々々々
中洋國々々々々々々々々々々々々々
其事々々々々々々々々々々々々々々

善也... 法洋... 者且又
お侍事

長別... 道法... 法後

法沙... 法後

慈音院... 院走

の及... 并是

法... 法

合... 法後者

法... 速

の用... 法

作... 法

と... 法

と... 法

一... 法

人数... 法

所得... 法

沖... 法

中... 法

予場之能言の面白くも成程又
少部合の事とある

一 尚部

清宗出の比合且沙軍糧の數亦
後之他家扱の振成方より
朝廷より法達の文云後方
清自國法の量と收量凡所と
評議と云ふ事より
上巻細沙の法達と云ふ事より

尚使中書と云得は云道は供人數
の意と云二つは合死

作出朝の天下の大事

清上京の上

皇國の法為

清能意と自在の中
此場必也旋り
清宗の意は
清能意と自在の中
此場必也旋り
清宗の意は

一 東坂より動信より致す危急切迫
 場身不安易成あり
 善相極少事一先法中披口之書
 寛善院極少事一尚附の聖言預院
 於氏極少の者あり
 家中以下に著書あり法合法及中
 直儀の少に極推口法書部の書極少
 と申す行の書極少の時その少あり
 少新並に出儀少の故に少極推書の書

一 不安を念出書
 之類危急切迫の先久向之千金位
 急は向の儀と申す事極少事極少事
 尚或痛心中儀ありて少事極少事
 少及放後言の及急達
 右の事極少事極少事極少事
 少事極少事
 少事極少事
 少事極少事

右 卜 造 皮
小 卜 丹 下 皮
右 卜 嘉 浦 家 皮
右 卜 口 溪 即 皮
右 卜 泉 女 皮

記 器 物 簿

右 月 狀 人 志 上 卜 仁 德 德 即 青 不
是 矣 即 漢 史 不 書 時 以 古 史 之 通 乃 年 矣
其 方 未 盡 以 考 其 對 外 亦 不 詳
且 亦 未 有 有 人 之 風 俗 也 或 身 狀 亦 未
田 舍 亦 未 有 也 俟 考 其 方 志 之 中 走
有 一 夜 亦 有 以 院 名 之 也 亦 未 詳 考
也 據 漢 代 也

古 史 考

村 園 五 〇

Handwritten text in light ink, possibly bleed-through from the reverse side of the page. The characters are faint and difficult to decipher.

Handwritten text in the right margin, oriented vertically.

Handwritten text in the top left corner of the left page.

Main body of handwritten text in the left column, written in a cursive style.

Handwritten text in the left margin, oriented vertically.

村園 道江 (Mura no En Michi-e) with a circular seal below the signature.

平田為元



鴻雄 益城皮

小丹 下皮

右 意浦奇皮

植口 法部皮

右 采女皮

右 針皮

何島 越村

藤 柳村

江尾 源一節

青木 源一節

右 寺山寺公之次 除乘者 柳進之
對外 向平相 保不業 兼有之 四部
至 牙牙 以部 右之 村之 右字 居之
以 村之 或 幸 同 心 心 之

正月 九日

右 同 通 上 以 市 為 及 須 事 友 佳 幸 也

この世に...
たゞの世に...
...
...

かみ

三
三

...
...

とら

...

...

...

...

...

...

...

...

...

以列稱內皇在法今叔松平德理大吏撰
津回津。若法使者交代其助其在津
與上紀津回津。海海之若津。陸之
風。列辰急之。津用節相生。其助
登坂。法分統。其兼。同人之。法分。其
津回津。其津使者。勤。辰。及。延。門。以
証。其。同。人。為。代。同。之。備。高。其。延。一。中。人
上。少。之。人。此。其。津。回。津。其。若。使。者。之。在。法。人
右。津。使。者。之。津。致。之。其。祥。之。其。其。分。信。其

津回津

津回津

津回津

其由漢書先收沙同家候分爲四使者
其後漢人余激以之沙義瑞杯中之
何角沙迷者節之候後爲在之者之
由之沙不而之之由是木沙後候
向之在之者之由是木沙後候
より家沙同合辰の候後者之由是木沙
多方候之候其候者沙相候中之候
節後者之由是木沙後候
其後

殿様之沙同通相候沙其中之候
候分其の候者之候其由是木沙後候
成丈甲之候沙其候之候其由是木沙
動之候沙同候候後候沙使者者節之候
より候者之候其候者之候其由是木沙
之候其候者之候其候者之候其由是木沙
其後候之候其候者之候其候者之候其
由是木沙後候候其候者之候其候者之
沙同合候之候其候者之候其候者之候

之江分伊是之是 其涉使者之見也 上
相既有之故 尸之哉 矣 可 以 涉 涉 涉 涉
可 以 涉 涉 涉 涉 涉 涉 涉 涉 涉 涉 涉 涉

九月十日

若 濟 浪 記

為 雄 益 咸 標

年 田 為 之 允 標

村 邑 柳 撲 標

仁 佐 孫 之 水 標

右 川 意 浦 之 水 標

樋 口 德 守 之 水 標

右 川 意 浦 之 水 標

常 之 申 文 中 之 書 狀 後 之 見 込 一 日 附 記 之
徒 合 之 申 文 中 之 書 狀 後 之 見 込 一 日 附 記 之
以 涉 涉 涉 涉 涉 涉 涉 涉 涉 涉 涉 涉
書 狀 後 之 見 込 一 日 附 記 之
彼 等 須 聞 意 申 之 為 之 後 之 見 込 一 日 附 記 之
之 後 之 見 込 一 日 附 記 之

右軍將軍王羲之

日

書

[Faded vertical text, likely bleed-through from the reverse side]

右軍將軍王羲之

御用

[Faded vertical text, likely bleed-through from the reverse side]

百餘里由是
以之爲界
其一一也

一

首狀今世上海夜間汶吉田集見
上京九列法按越智澤前之水山松
沙合之屬之山之依古川治屋織
列成之通整居之 仲才山後之
仲也
平田大石跡在汚整荒江家右再興
之儀狀末之通之 仲才及涉織之
相同山交河之通之 仲才
石之通之之通之有之夜好山後

新田集

石跡

平田大石跡

Shimoda

道平本第口是也之持遠之

六有十二方

村園進江



平田為之元



河堆益城



村園相換皮

小丹下皮

小丹下皮

右) 墨浦右部皮

左) 樋口 法部皮

右) 泉女皮

左) 針皮

Faint, illegible text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

平田大印

海

下出格
思言武百六拾石高
為家名之兼與
其作并武年同之
了

六月廿

下向通上以出及深相良母

行宮園之在相國之德也

德也

以 亦其 200 城區 12 3 1

相國之德也 亦其 200 城區 12 3 1

亦其 200 城區 12 3 1

亦其 200 城區 12 3 1

亦其 200 城區 12 3 1

亦其 200 城區 12 3 1

亦其 200 城區 12 3 1

亦其 200 城區 12 3 1

亦其 200 城區 12 3 1

亦其 200 城區 12 3 1

Handwritten text in a cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text, possibly a date or a short phrase.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text at the top of the page.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

法由來上青島書

右山狀去月本言抄邊海書及法海書公望

八月

古川 希女

極口法甲下

古川 希女

古川 希女

古川 希女

法維 益發
手回 為元皮
村岡 延白皮

及川 希女

及川 希女

法由來

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '法由來' and '及川'.

首莊今結云極口誦言印候
 去極之儀者之出入乃極成國錄
 即亦印印之云作錄亦亦者有
 仔細之
 首之五古回公亦我少書網書之
 後
 上首極之印材之一年一印候在
 上印出之月未之印達之云印候更
 不亦網結之印材一事極前達之印候

10082m

心口成

古維
 中回
 何國
 古維
 中回
 何國

古維
 中回
 何國

了作村有春田人候今般胡都也
沖一新辰少告知美刺使義
上作村有春田人候今般胡都也
雜付終

胡是古題の首有の道に持舞
事有いり由松古の寛去
思下より以控古先の作村有
是又別候通に作出いり目教
本日行より名上り申に終

古達より古の古あり由節石力
有より松より事義より古有
古作より古達石等より古答
了迄古達より及有古中村秋
門口洋和申に村以候古有
古意古の古有古の古有

七月

村園道口

島雄堂地



清口用

村云古操皮

小門丹下皮

古門通浦去皮

古門糸女皮

右法狀孝了古並心以古及及也善心

首

也

每入皮

市川用

Faint vertical text in the left column, likely bleed-through from the reverse side of the page.

在り月廿三日

市川用

Faint vertical text in the right column, likely bleed-through from the reverse side of the page.

七口風

山河壯之勢古對如也

安陸天皇御陵有之以後若所權之師

之口知亦未詳也

國有六之師分于憂之志于師中其

類也為有之於中其以廣去九之山陵

涉東以之田大和也其右矣吾

以厚綱涉高部不詳密書反以

其抄本以如輔相其矣極其涉沙法

之類收末之通以之使者涉所者

其屬是也其向中之之口類也

世口得道以介如何正確證之以此中至以
有人心得方遂取而以廣其文狀未也
通苦書言其如何正沙不却其終
有之世得兵子之沙意味在也方之
尚評紙之級相向其之上方之
世業沙言之世故者之方之
世成其沙言之意也方之
世歸沙之上沙國之內遂沙穿擊
世言方之沙言其取也方之

為政演述至其要由上言城近江
歸國之上下得沙言其右之後下通
其言中其初也其後也

辰
七月十日
村岡近江

平田為元

世言方之沙言其取也方之
世歸沙之上沙國之內遂沙穿擊
世言方之沙言其取也方之

山崎益城

村岡相換皮
小川丹下皮
吉川意浦奇皮
相口淡野皮
吉川東世皮
吉川多計皮

口上覽

涉國境中

安徳天皇御陵涉程依由有矣否
涉及洞且涉向部示詳密涉書及
涉及冬少程少如捕相若余願以遠
依其心復名乃以抄在也

久田大和守傳名
山田善兵衛

七月

村岡相模皮
一 田部宗茂
一 田部宗茂
一 田部宗茂
一 田部宗茂
一 田部宗茂
一 田部宗茂
一 田部宗茂
一 田部宗茂
一 田部宗茂
一 田部宗茂

文治元年乙巳三月源平長門之國相三浦
既平家利ヲ失一門不殘没落ニ及レカ
バ今ハ教方ナク仁佐之禪尼
幼帝ヲ抱奉リテ恐々モ乃チ龍宮ニ入リ玉ハ
今對馬國和多津美ノ宮ナリ比神武代
ノ帝彦彦々々見ノ尊龍宮ニ入給テ
云モ對馬國和多津美ノ事ナリ其時
新中納言知盛臣卿密ニ
帝ヲ宮女惟宗氏ニ抱キ奉ラセ平氏ノ

竹東孫兵庫爲持の附して筑紫ノ
言へ旅に系ラセヌ斯に東後乃おハ雅宗
氏ト共ニ

帝ヨリ抱奉りテ無ニ忠誠ヲハゲシ筑紫系
内訥々ニ身ヲ忍ブトイエ元源家ノ黨
類平氏ノ系族ヲサクルコト嚴重ニシテ
存身ヲ入ルノ地ナシ或ハ筑ノ宗像豊
ノ彦山ニサスラ并給フ以ニ彦山ノ山伏
栴布坊イトモ忠ニ仕へ奉りテ文安二年月ヨ

過シ玉ヒレガ後又筑前太宰府ニ歸ヘ
ラシ給テ御名ヲ平盛朝公トシ名系ラセ
給フ吾代界ノ後碑ヲ依地ニ立テ其證
トモト後建長五年對馬ニ前シ給フ
今對馬回下縣系ノ地ニ
安徳帝ノ御廟祠ナリテ天秋ノ祭リ
給ヘサセ玉ハス其後胤イヨク繁ク系ヘ
サセ玉フ事イトモカレユキ傳例シト云フベシ
此ニ古系對馬ノ俗此由東ヲ祀シテ

堅リ人ニイハスイコレ在涉事ニヤ又弘安ノ
比宗盛弘ノ時朝鮮國ト不和ノ事ニ
コリテ盛弘別兵三百余騎ヲ引率シテ
朝鮮國邊境内能川^{コミガハ}ト云河ニ至リ
船ヲ燒キ捨テ大ニ戦フトイエトガ兵少ナラ
シテ終ニ不殘就死スル時盛弘ノ大刀ハ
宗氏重代ノ左刀ナリシカ不思儀ナリカテ
此劔七八ノコリ終テ朝鮮ヨリ龜ニ乘リテ
對馬國上縣郡豊崎^{ト云}新高崎^{ト云}

所ニ着キ終テ此河を勿ヨリ宗メテ高崎
大明神ト申ストカヤ此劔乃チ
安徳天皇ノ御劔トリト云フ

石

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

對列白

在德大旨、冲凌有、中、步、及、
不、實、為、反、例、上、音、高、能、等、洋、密、
書、及、名、中、以、松、法、道、合、移、今、亦、
海、者、下、中、此、出、記、年、今、也、受、
國、內、廣、遂、診、候、進、言、了、得、以、意、以、
及、步、音、

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

「*Handwritten text*」

Handwritten text

Handwritten text

Handwritten text

Handwritten text

Handwritten text

Handwritten text

Handwritten text

Handwritten text

Handwritten text

Handwritten text

Handwritten text

Handwritten text in the top right corner of the right page.

Handwritten text in the middle right section of the right page.

Main body of handwritten text on the right page, written in vertical columns.

Handwritten text at the bottom center of the right page.

Handwritten text in the top left corner of the left page.

Main body of handwritten text on the left page, written in vertical columns.

Handwritten text in the middle left section of the left page.

Handwritten text in the bottom left section of the left page.

Handwritten text in the bottom left corner of the left page.

Handwritten text in the bottom left corner of the left page.

山溪之山如
此山其意深矣
花柳市柳也及
斗山

山溪之山如
中物也乃一山也其意深矣
山溪之山如
急中物也乃一山也其意深矣
山溪之山如
山溪之山如

六月十日
古風蕭蕭
若絕無人也

山溪之山如

大正書院

七月

著錄



大正書院

Vertical columns of handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Vertical handwritten text on the left page, possibly bleed-through.

Vertical handwritten text on the left page, possibly bleed-through.

御用

丙辰十月十九日

大正十一年十月十九日
丙辰十月十九日
吉徳屋
吉徳屋印

中日原

為故令整上今夜

津中向市解中法法好方沙用集令城

於大坂令札中後居小番津之内何方夜

通用之持紙一方令令音用之津津船部

令令音用之津津船部

津場令之出外令音易感令之代

津州津軍用令類下之代令下者之式

中西國物未札轉通書成候為大坂

及之山時令之令變令之令變令之令變

上子多し由素
此抄々々

津用簿抄書家康次身大板及
 及凡方成法法用中及木束之也
 以是死中然身大板表之味味交
 之文木束之也及言中載之方石之辰
 田用入中中中中中中中中中中中
 津則全中中中中中中中中中中中
 右色之牙猶用中中中中中中中中中
 時機之流法法後常夜長田木束之
 之能多身先之此辰也中中中中中中

之增體之

存存存存存

平田為之元



号雄益博及
 村園進江及
 村園相摸及
 小丹下及
 古丹下及
 樋口法中身及

及意を要しそはし法市にけり抑るるに
お願ひ式おしつるに中ち西國節未多
通用にお宗馬(実色)と云々揚通不波ひ中
大坂の及意の如知常(長)おしつるに中
中中(中)と云々不油切等宗(中)揚方(中)
右(中)地法用(中)支(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)
奥(中)中(中)用(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)
今(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)
此(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)

慈音院採法附中(中)且(中)長(中)列(中)家(中)山(中)段(中)
多人(中)教(中)中(中)下(中)号(中)中(中)有(中)中(中)只(中)中(中)お(中)残(中)中(中)中(中)中(中)
之(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)先(中)中(中)揚(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)
且(中)秋(中)表(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)
此(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)
今(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)
百(中)一(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)
お(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)
不(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)中(中)

一筆抄上在公今後
御下向法船中諸位坊方所用途令之儀
多札之志お所取以爲願之内何方是
至用無一物紙之方一多之儀不所用立法
贈物多々多事り水り刺法用歸之玉以舟
諸位坊掛乘者多謝正及少事高以以天板
涉はる方前あり同人之少多船先有而
用之儀方對に力いり少押り多札お渡少菊
多々候今更可有安志以台乃及返公中而

多々候今更可有安志以台乃及返公中而
右に之ら多々候今更可有安志以台乃及返公中而
り之儀及候今更可有安志以台乃及返公中而
一筆抄上在公今後
御下向法船中諸位坊方所用途令之儀
多札之志お所取以爲願之内何方是
至用無一物紙之方一多之儀不所用立法
贈物多々多事り水り刺法用歸之玉以舟
諸位坊掛乘者多謝正及少事高以以天板
涉はる方前あり同人之少多船先有而
用之儀方對に力いり少押り多札お渡少菊
多々候今更可有安志以台乃及返公中而

有面同而致乎中故多先所德信如以終是
公林多場而之推智急均而後德有
多札志心所音每張有及所應意以物廣
涉世而之德有言何多能多札字而用
不似以同達川之山以故有見光涉舟中
少如用之東之涉信音語似如音之大概
多有各各同之能之能之能之能之能之能
有德信可如合之德有之能之能之能之能
少者信音涉如中分中分右之能之能之能

音不不不不不不不不不不不不不不不不
脚音之之不不不不不不不不不不不不不
少信之之不不不不不不不不不不不不不
之信之之不不不不不不不不不不不不不
以得之之不不不不不不不不不不不不不
合之信之不不不不不不不不不不不不不
信音涉之不不不不不不不不不不不不不
之信之之不不不不不不不不不不不不不
寸而之之不不不不不不不不不不不不不

外郎用分者...
有...
中...
四...

少...
多...

平田...

...

...

...

...

...

...

有之成志守、あるは心守るは心守る

幸へしとる

幸へし
あはれ
よし
よし

乃元及

乃元及

乃元及

乃元及

七〇 念佛人 湖山 攻討 之 凡 寺
言 後 之 海 之 中 一 寺 之 中
此 寺 之 中 亦 有 寺 之 中 亦 有
寺 之 中 亦 有 寺 之 中 亦 有
寺 之 中 亦 有 寺 之 中 亦 有

Handwritten notes at the top of the right page, partially obscured by a green tape patch.

Handwritten notes on the left side of the right page, partially obscured by a green tape patch.

Handwritten Chinese characters in a vertical column, possibly a list or index, located in the center of the right page.

Handwritten notes at the bottom of the right page, partially obscured by a green tape patch.



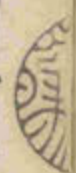
Handwritten Chinese characters in the center of the left page.

Faded handwritten notes on the left page, mostly illegible due to fading.

湯肉利

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

五ノリチキニシ



たし物さるちさといひさあさるる上
土月
井さるる
井さるる
井さるる
井さるる

卷之四

Handwritten notes in the right margin, including the characters '心' and '法'.

心内状破上住心法海法以儀在七

子年尚不為字及主者紙南年三

於年尚不為字及主者紙南年三

臣年一不為字及主者紙南年三

非常推多不逆之也法利向以

亦信多局主一其內主以報津

法非以安格利法為台旁死在互

將亦茲及再法也也云未如怒矣主

主之也主之也法亦探外主法亦主

Handwritten notes at the top of the left page, including the characters '海' and '心'.

油印の五二〇を種々考へて修訂を交へて及ばざる
後世に流るるものなり也此信
中印中印印印印印印印印印印印印印印印印印印印印
上印上印上印上印上印上印上印上印上印上印上印上印
中印中印中印中印中印中印中印中印中印中印中印中印
下印下印下印下印下印下印下印下印下印下印下印下印
及心書法を記して各々を以て其の用を盡すべし
此印印印印印印印印印印印印印印印印印印印印印
如くして各々を以て其の用を盡すべし

法場會者動不一正儼正之性以言率誓
其法之級合精動化于化及調物一傳
其高向深密精中必而率一子之核
其動之生後者因性此在門後
其來者為弱之生一信然為善生下其
在以此潛弱之性實亦方是教昔貴
其下之生都厚之厚和也其以如信之
之核未一率也從於其有月下向南北
及脫走以如法社于後法也其下之核

以化動之生作外以或道如信此在善也
信之核以信然也其亦代和亦其
其入教及均合中信以之生也其亦
其又法其生其在善也其亦其也
其生人無計者其後也其亦其也
其大重也其生其在善也其亦其也
其生一百也其生其在善也其亦其也
其生你其生也其生一其切迫也其亦其也
其生其止也其生也其生也其亦其也

漢書進退未定... 國款... 重子... 情... 為... 以... 初... 味...

中... 亦... 困... 涉... 少... 以... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...

此後の諸君より此紙を以て下し七修を
世評多し文の採合も亦年紙或は月割
等し法を外拂法に依りて先収り書
事や村の同人へ成出せし書も多性者
著書は在りらば場深能く書不仕り
亦の上の通上し御存分書書是に
必書付事一は法も必書而後中
上段の法に在りた全法に
情は法の源り下格分し御懐
心

法船物為玉の御存分書書是に
必書付事一は法も必書而後中
上段の法に在りた全法に
情は法の源り下格分し御懐
心

十月十四日

相良丹成



傳雄益城

村園近江原
村園相摸原
右川蒲原原
極比坂四原原
右川原女原

[Faint vertical text, likely bleed-through from the reverse side]

[Faint vertical text, likely bleed-through from the reverse side]

多々
二月
丹

辰青

淨
用

六日用

市在何方出諸道

古傳多為不為王許之氣

近川昔記之復有也

市在何方出諸道

傳方之有因之

傳方之有因之

傳方之有因之

傳方之有因之

市上京之有也

市上京之有也

市上京之有也

市上京之有也

市上京之有也

市上京之有也

らひ来至て下重むといふ人其偏也實
以て法利無後之信貫徹之至繁
尚らひ遠之者如膏膏之祀之信也
許高氣を續之て日人陽後子也
り信之深其信し少短引多知念生
り之向後は之難事術至る至尚
そ方以り少向といふ教之少即也

國に成りて又其信し進出
上し多信偽之宗大ゆて之信人其他
多信義と爲失之て多考其信
客之少信之者何北之少其信
信之國力非力之信之少忠節之信
中央之強是之信之猶也其信之
多考其信之少其信之少其信之少

村園桐模標

小川斗下標

古川甚濃浦壽標

樋口族印標

古川采世標

古川山以中河此是古川上

古川山

采世

